

ご使用のしおり

DreamLock 60D

JANOME
HIGH QUALITY SEWING

お買い求めいただき、ありがとうございました。

お客様にいつでもお気がるに使っていただくため、
ジャノメが心をこめて作りあげたミシンです。

はじめてお使いになる方には使いやすく、また、使いなれた方
にもいろいろな実用縫いが簡単にできますので、
充分ご満足いただけたと思います。

ご使用前に、この取扱説明書を十分、お読み下さい。
この取扱説明書は、お使いになる方が、いつでも見られる
ところに保管して下さい。

万一、使い方・修理などのアフターサービスが必要なときは、
お買い上げ店にお申しつけください。

目 次

準 備

●安全にご使用いただくために	2
●各部の名まえ	3
●標準付属品	4
●電源をつなぎましょう	5
●速さの調節のし方	5
●はずみ車の回転方向	6
●布板のあけ方、しめ方	6
●ルーパーカバーのあけ方、しめ方	6
●糸掛けスタンドの位置決め	7
●糸こま押え、糸こまネットのつけ方	7
●針のとりかえ方	8
●押えのあげ方、さげ方	8
●押えのはずし方、つけ方	9
●押え圧力の調節	9
●縫い目あらさの調節	10
●縫い目伸縮の調節	10
●上メスの解除	11
●上メスのもどし方	11
●切り巾の調節	11
●ふちかがり縫いと巻き縫いの切り替え (かがり爪位置の切り替え)	12
●糸の通し方	13~21
★下ルーパー糸の通し方	14~15
★上ルーパー糸の通し方	16~17
★右針糸の通し方	18~19
★左針糸の通し方	20~21

ふちかがり縫い

●試し縫いをしましょう	22
★縫いはじめ	
★縫いおわり	
★つづけて縫うとき	
★ガイドラインの使い方	
●縫い始め、縫い終わりの糸の始末、 縫い目のほどこき方	23
●糸調子の出し方 (2本針4本糸)	24
★正しい糸調子	24
★糸調子の調節のし方	24~25
●糸調子の出し方 (1本針3本糸)	26~28
★右針を使うときの糸の通し方 (かがり幅3.5mm)	26
★左針を使うときの糸の通し方 (かがり幅5.7mm)	26
★正しい糸調子	26
★糸調子の調節のし方	27
●布に適した糸や針を選ぶ目安 (ふちかがり縫い)	28

応用縫い

●巻き縫い、ピコ縫い、 細ロック縫い	29~30
●縁飾り縫い	31
●ギャザーよせ	31

●ピンタック	32
●コーナー部の上手な縫い方	33

ミシンの調整と手入れ

●切りくずの掃除	34
●送り歯の掃除	34
●電球のとりかえ方	35
●ミシンの持ち運び方	36
●別売付属品	37
●調子がよくないときの直し方	38

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY



警告

感電、火災の恐れがあります

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用下さい。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - ミシン使用中に停電したとき



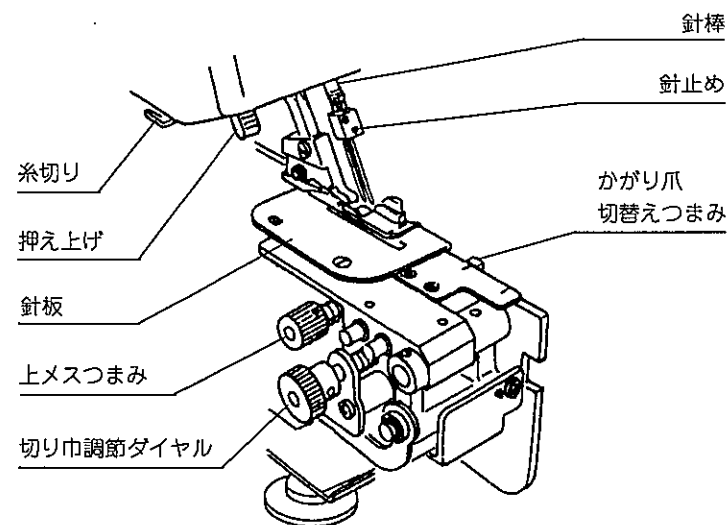
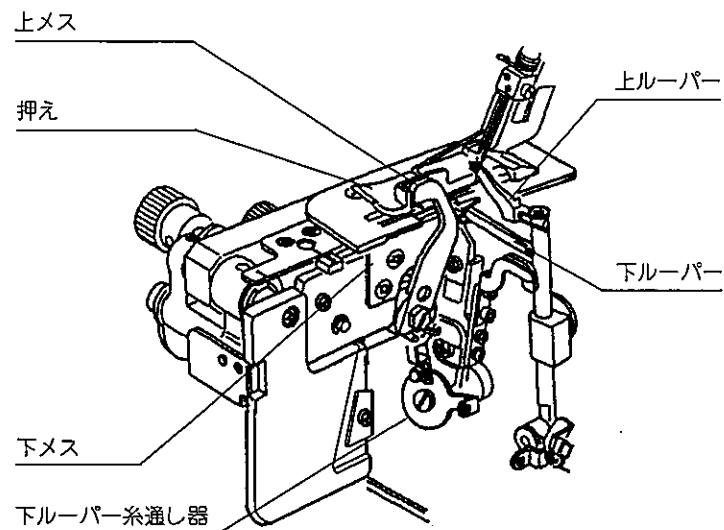
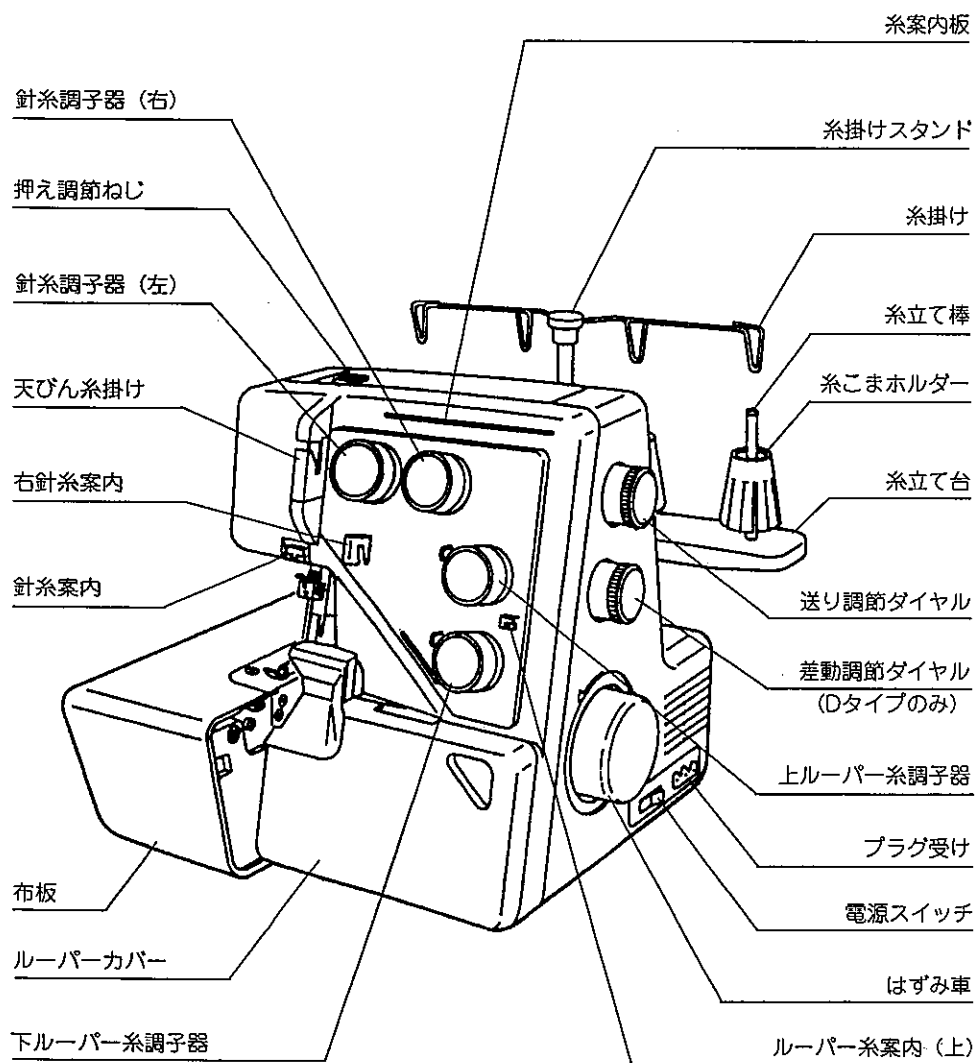
注意

感電、火災、けがの原因となります

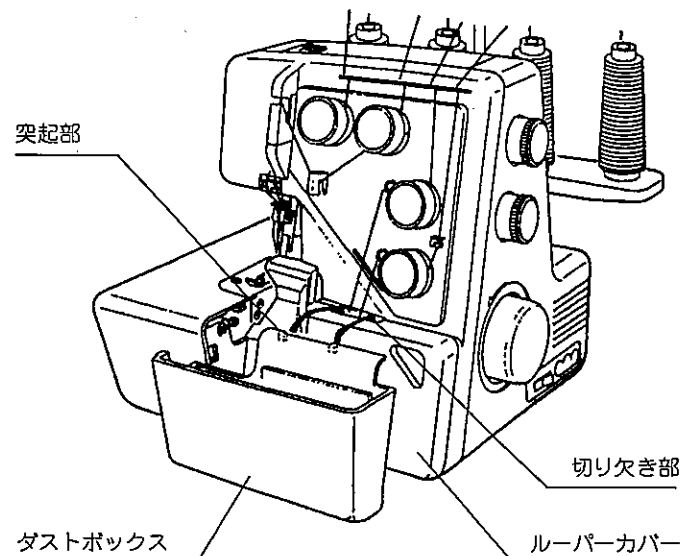
1. 一般の布以外には使用しないで下さい。
2. 電球を外した状態でミシンを使用しないで下さい。
3. コントローラーの上に物をのせないで下さい。
4. お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
5. ミシンの操作時は、ルーパーカバー、布板などカバー類を閉じて下さい。
6. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、ルーパー、メス、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近ずけないでください。

7. 全体にまがった針や、針先のまがったりつぶれたりした針は、使用しないで下さい。
8. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないで下さい。
9. お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
10. 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - 針、針板、押え、アタッチメント、メスを交換するとき
 - 針糸、ルーパー糸をセットするとき
 - 電球をとりかえるとき（電球が冷えていることを確認して下さい。）
 - 取扱説明書に記載のあるお手入れを行うとき
11. ミシン、コントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買上げの販売店にて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - 正常に作動しないとき
 - 落下などにより破損したとき
 - 水に濡れたとき
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - 異常な臭い、音がするとき

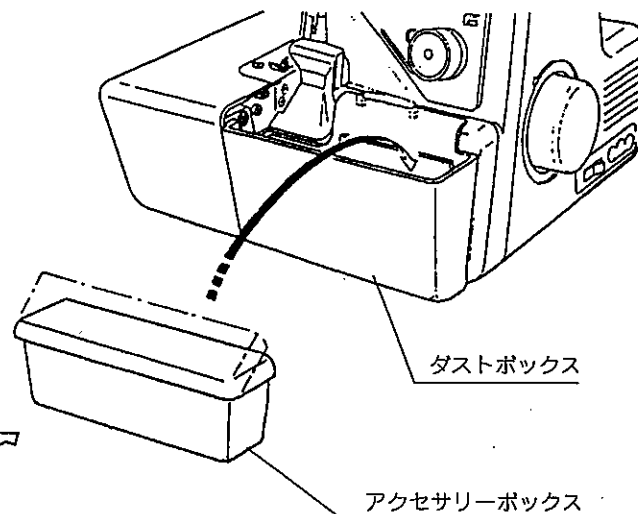
●各部の名まえ



●標準付属品

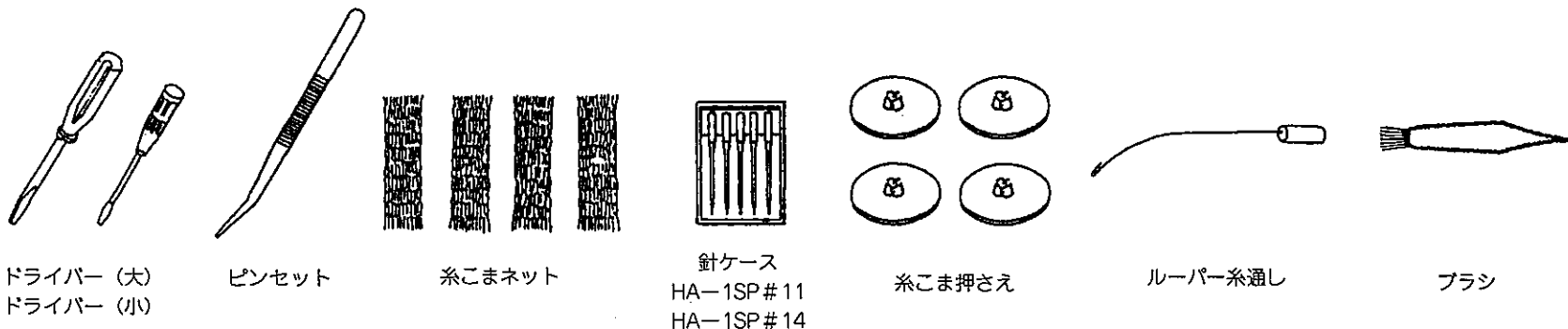


ルーパーカバーの切り欠き部にダストボックスの突起部を差し込み、布くず受けとして使用します。

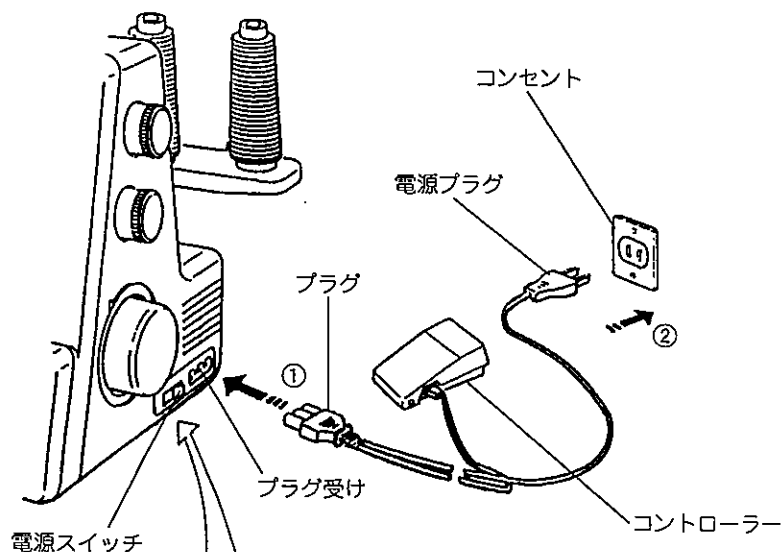


ミシンをお使いにならない時、アクセサリーボックスはダストボックスに収納できます。

●アクセサリーボックス内の付属品



●電源をつなぎましょう

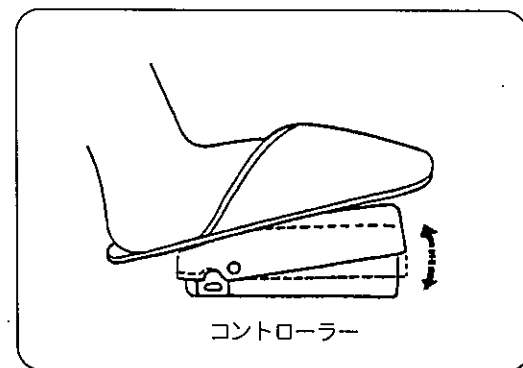


- ① 電源スイッチを「OFF」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
 - ② 電源プラグをコンセントにさしこみます。
 - ③ スイッチを「ON」にします。
- * 電源は、一般家庭用（100V 50/60Hz）です。

⚠ ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

⚠ 電源プラグやプラグを抜く時は、コードを引張らないでください。

●速さの調節の仕方

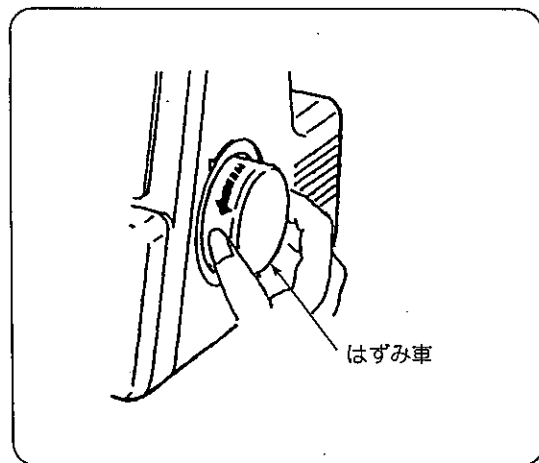


ミシンの速さは、コントローラーで調節します。

○ コントローラーは、深く踏みこむと、速くなります。

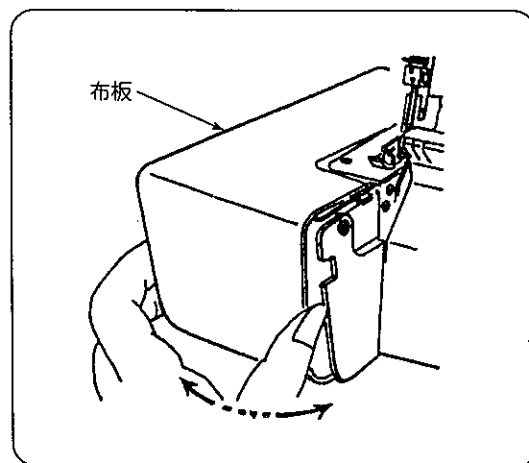
⚠ コントローラーの上に、物を置かないでください。

●はずみ車の回転方向



○ はずみ車は、手前にまわします。

●布板のあけ方、しめ方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

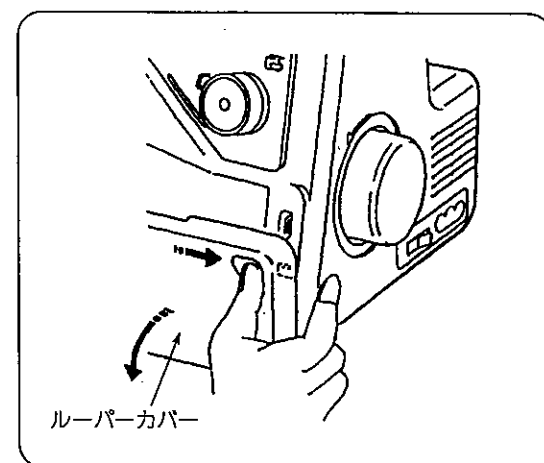
★あけ方

左へ押してあけます。

★しめ方

右へ押してあけます。

●ルーパーカバーのあけ方、しめ方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

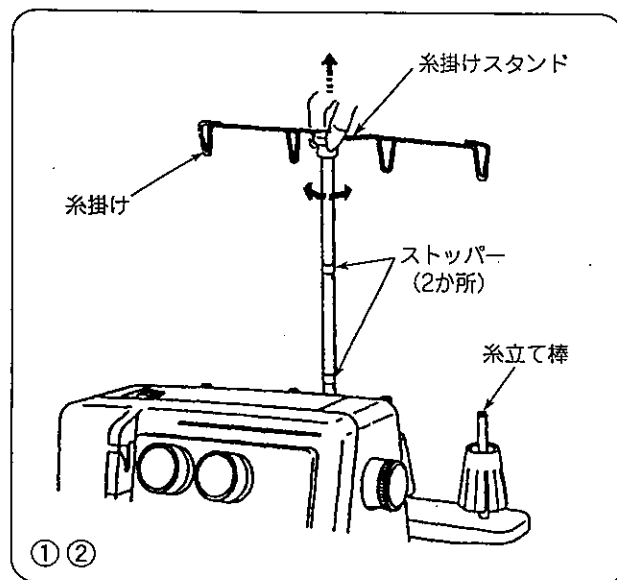
★あけ方

右いっぱい寄せながら、手前にひきます。

★しめ方

持ち上げて軽く向こう側へ押すと自動的に元の位置にもどります。

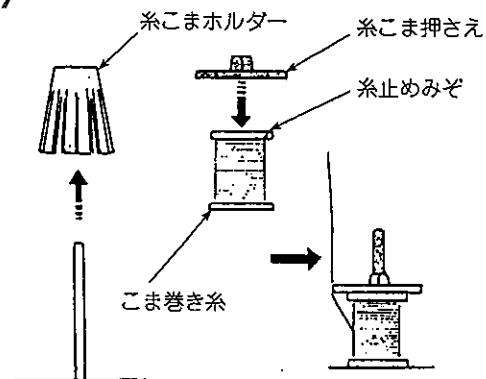
●糸掛けスタンドの位置決め



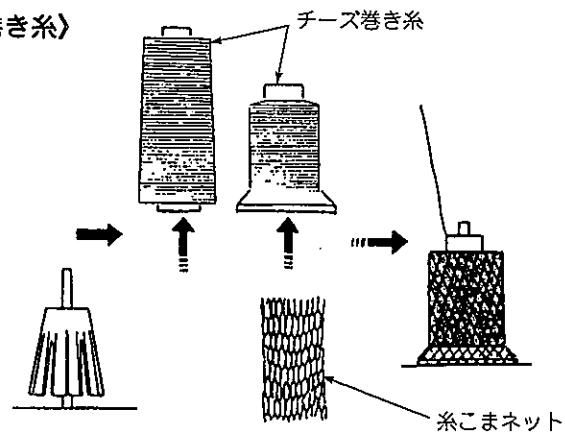
- ① 糸掛けスタンドをいっぱい伸ばします。
- ② 糸掛けが糸立て棒の真上にくるように、糸掛けスタンドを回転させて、ストッパーで位置を決めます。

●糸こま押え、糸こまネットのつけ方

〈こま巻き糸〉



〈チーズ巻き糸〉

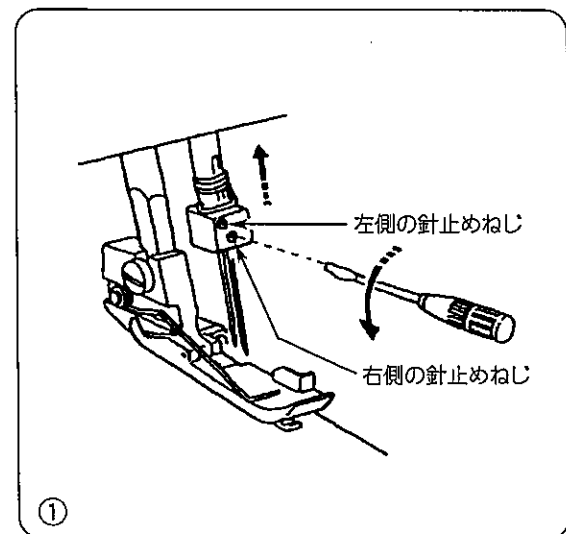


このミシンはこま巻き糸と、チーズ巻き糸が使用できます。

* こま巻き糸は、糸巻きの糸止めみぞのあるほうを上にして、糸こま押えをはめてください。

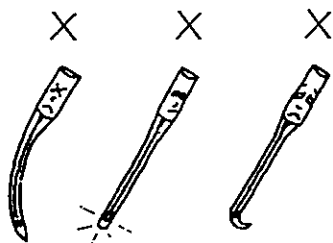
* 化繊糸などの巻きがくずれやすい糸を使用するときは、付属の糸こまネットを下からかぶせてご使用ください。

●針のとりかえ方

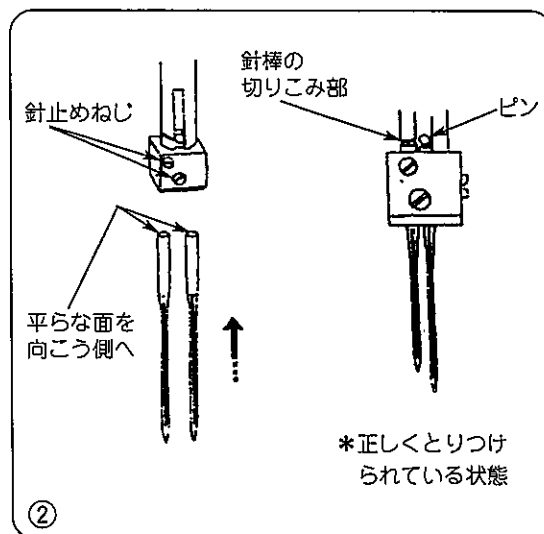


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 針を上げ、とりかえようとしている針の方の針止めねじをゆるめて、針をはずします。



⚠ 全体にまがった針や、針先のまがったりつぶれた針は、使用しないでください。



② 右側の針をつけるとき

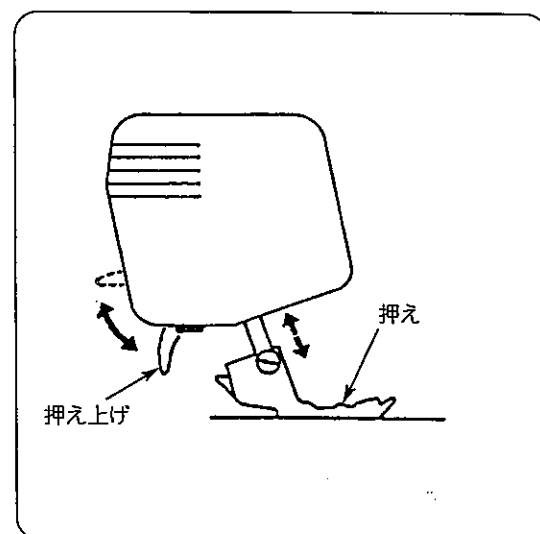
針止めの右側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱいピンにあたるまでさしこみ、右側の針止めねじをかたくしめます。

左側の針をつけるとき

針止めの左側の穴に、針の平らな面を向こう側に向けて、奥いっぱい針棒の切りこみにあたるまでさしこみ、左側の針止めねじをかたくしめます。

* 針が正しくとりつけられていると、左側の針は右側の針よりも少しあがった位置にあります。

●押えのあげ方、さげ方

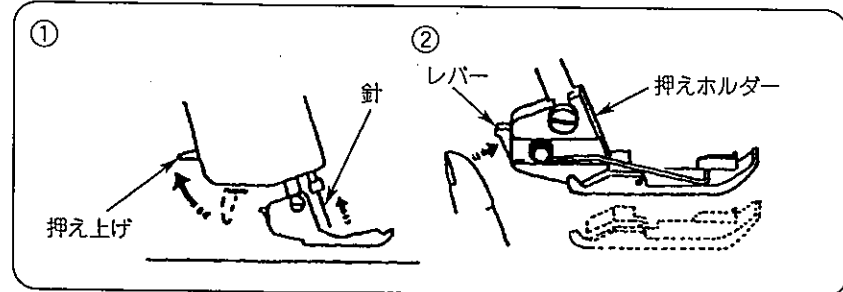


押え上げをあげさげして、押えをあげたり、さげたりします。

- ★ 一般に、糸を通しなおすとき以外は、押えをさげたままにして使用します。
- ★ 押えをあげても、糸調子は、ゆるみません。

●押えのはずし方、つけ方

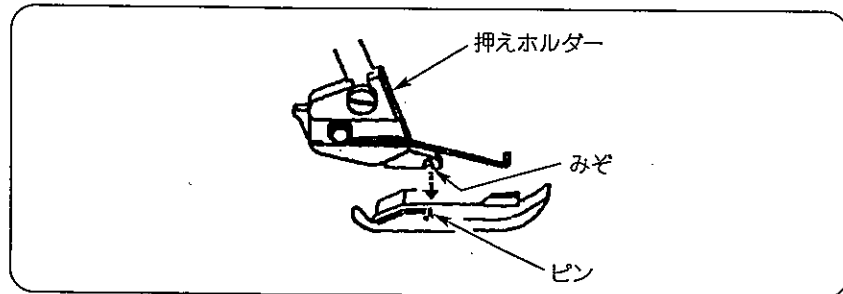
★はずし方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① 針をあげ、押え上げをあげます。
- ② 押えホルダーのレバーを押して、押えをはずします。

★つけ方

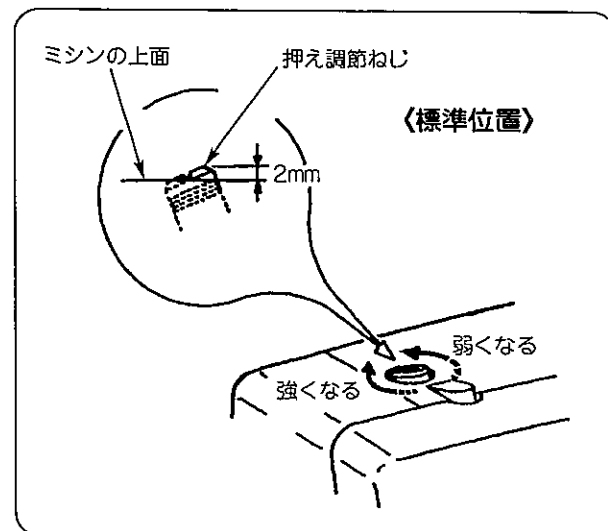


⚠ 電源スイッチを切ってください。

押えのピンを押えホルダーのみぞの真下において、押え上げを下げれば自動的にセットされます。

* 押え上げをあげ、押えが確実に付いていることを確認してください。

●押え圧力の調節



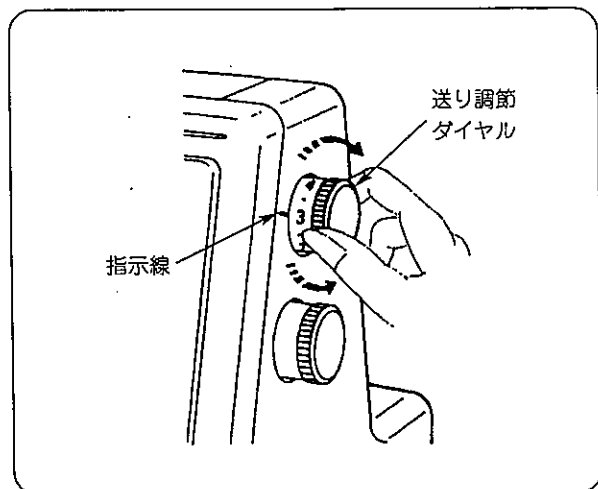
このミシンは、通常、押え圧力を調整する必要はありませんが、極うすもの、極厚ものとき押え調節ねじで調節してください。

- ・ 極うすものときは、圧力を弱くします。
- ・ 極厚ものときは、圧力を強くします。

* 縫い終わったら、押え調節ねじは標準位置にもどしておいてください。

押え調節ねじの標準位置は、面板側の真横から見て、ミシンの上面からおおよそ2mm位高い位置です。

●縫い目あらかさの調節

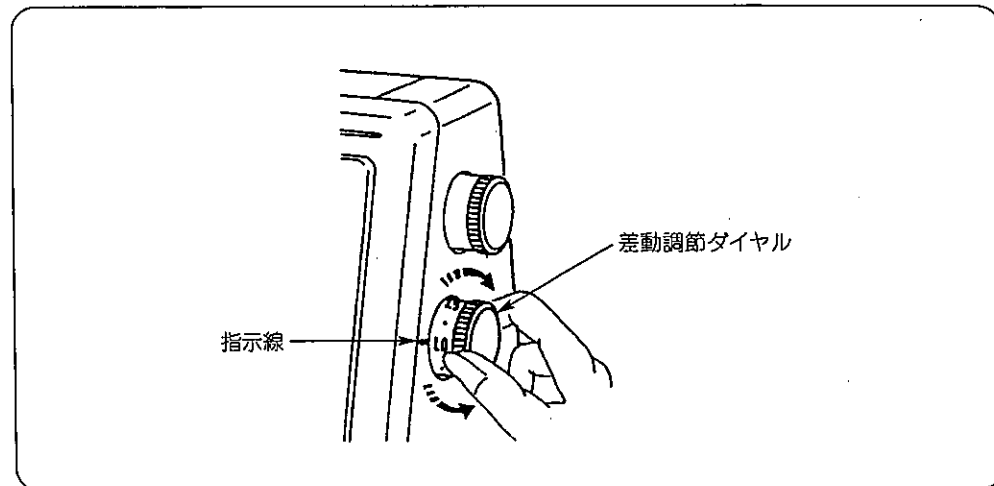


送り調節ダイヤルをまわして、目盛を指示線にセットします。

縫いの種類に応じて目盛を選択してください。

- * 縫い目のあらかさは、最小1mmから最大5mmまで調節できます。
- * 送り調節ダイヤルの目盛「R」は、巻き縫い及び細ロック縫いをするときの縫い目のあらかさ(1.3mm～1.7mm)です。

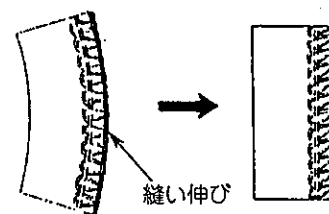
●縫い目伸縮の調節 (Dタイプのみ)



縫い伸びしやすい布地や、縫い縮みしやすい布地は、差動調節ダイヤルで調節ができます。

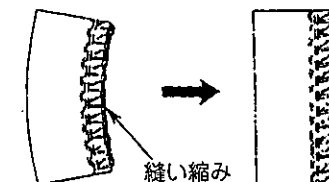
★布地が伸びてしまうときの直し方

差動調節ダイヤルを手前側へまわし「2.0」の方へ大きくするに従い、縫い伸び防止の効果が高まります。



★布地が縮んでしまうときの直し方

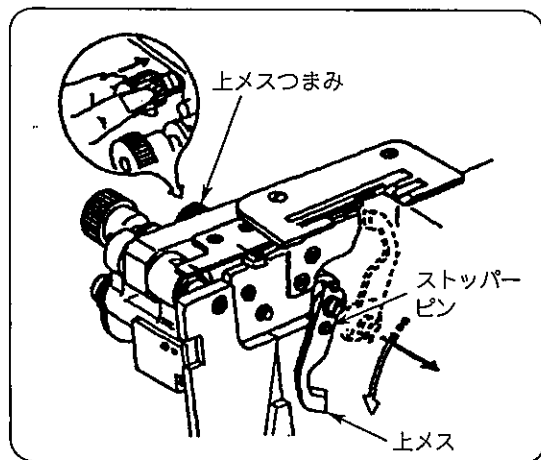
差動調節ダイヤルを向こう側へまわし「0.7」の方へ小さくするに従い、縫い縮み防止の効果が高まります。



- * 縫いの安定のために、送り調節ダイヤルを3.4mmより大きくすると最大差動比を自動的に制限する方式を採用しています。

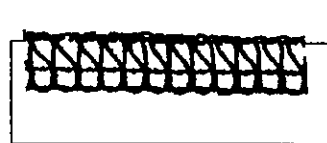
(送り調節ダイヤルが5mmのときは、最大差動比は1.3に制限されます。)

●上メスの解除

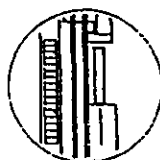


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスつまみを右いっぱい押しなが
ら、手前に回してストッパーピンを上
メスの穴に入れます。
- ③ ルーパーカバーと布板をしめます。

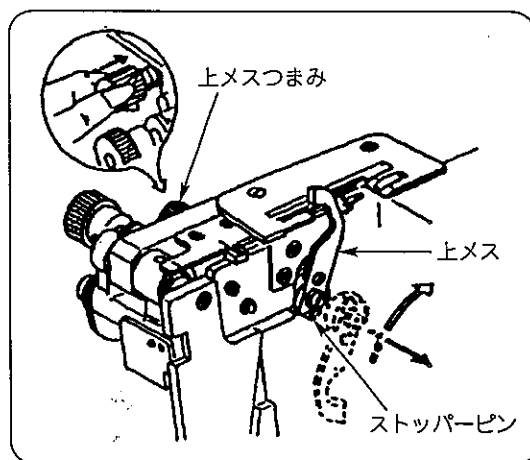


(A) 布端が縫い目にとどかない場合、



下メスを右へ

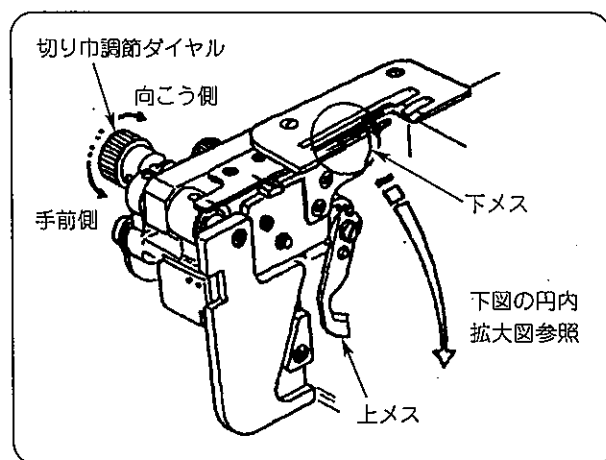
●上メスのもどし方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスつまみを右へいっぱい押しなが
ら、向こう側に回してストッパーピンを
上メスの下側の溝に入れます。
- ③ ルーパーカバーと布板をしめます。

●切り巾の調節

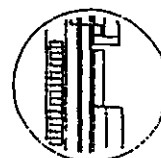


⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスを解除します。
- ③ (A)布端が縫い目にとどかない場合、
切り巾調節ダイヤルを手前側へまわして下メス
を右へ移動します。
(B)布端が余りすぎてシワになる場合、
切り巾調節ダイヤルを向こう側へまわして下メス
を左へ移動します。
- ④ 上メスをもどし、ルーパーカバーと布板をしめ
ます。

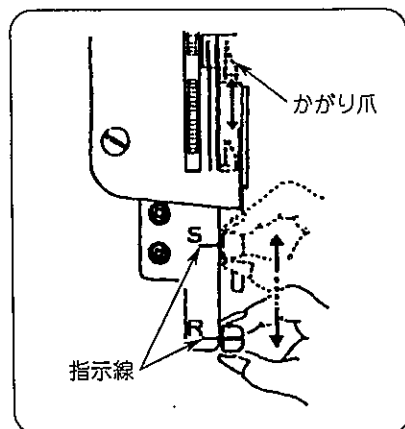


(B) 布端が余りすぎてシワになる場合、

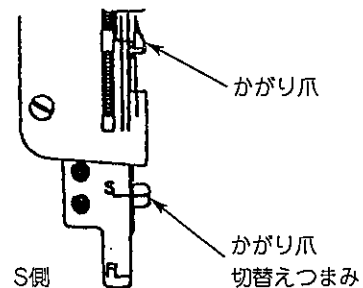


下メスを左へ

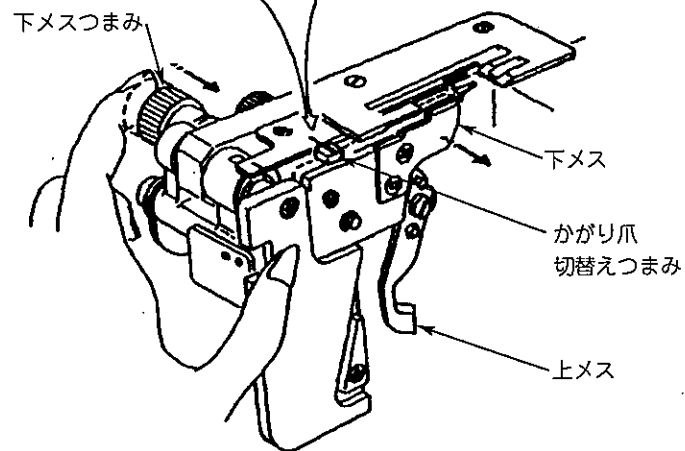
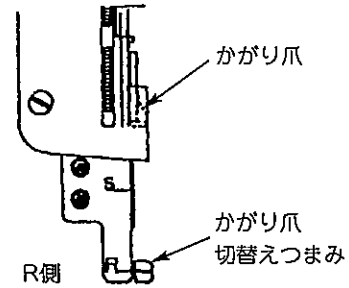
●ふちかがり縫いと巻き縫いの切り替え（かがり爪位置の切り替え）



〈普通のふちかがり縫い〉



〈巻き縫い〉

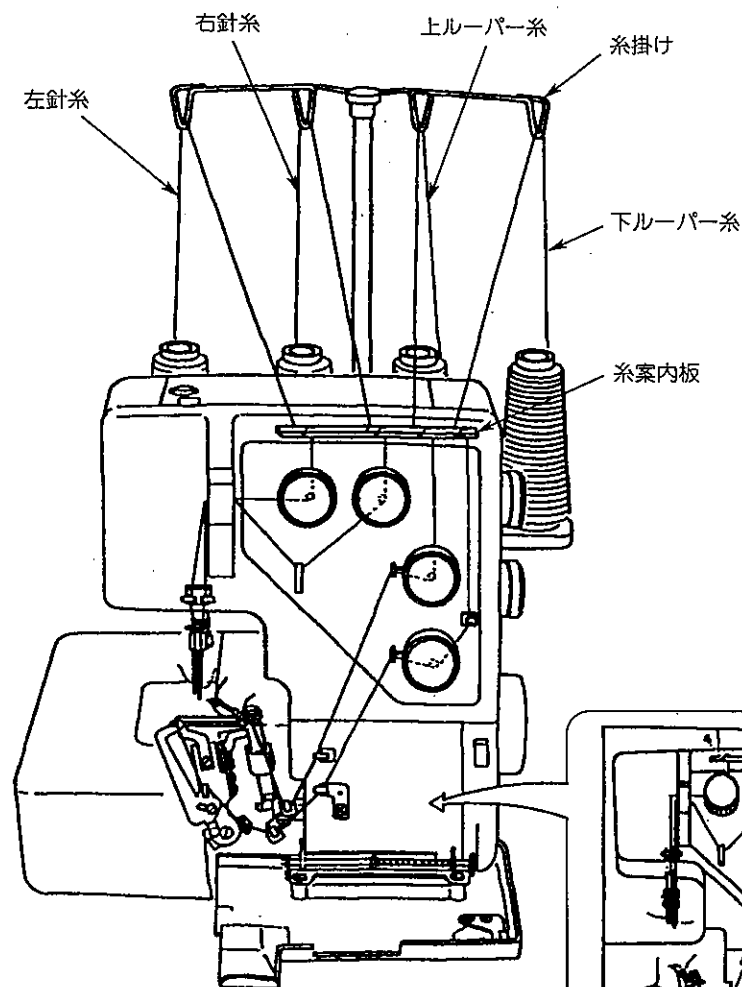


⚠ 電源スイッチを切ってください。

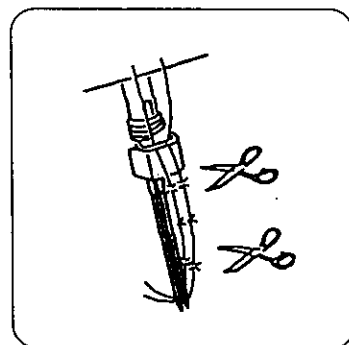
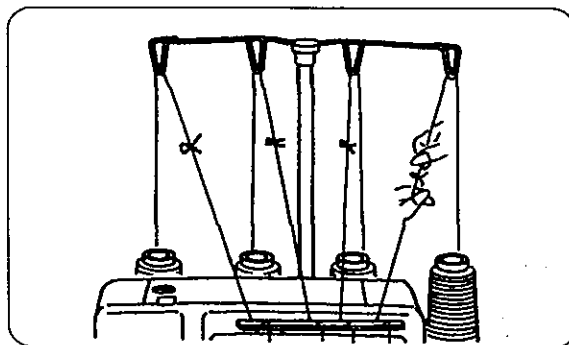
- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 上メスを解除します。
- ③ 下メスつまみを右いっぱいを押しながら、かがり爪切替えつまみを普通のふちかがり縫いの時は「S」側へ、巻き縫いの時は「R」側へ移動します。
- ④ 下メスつまみは手をゆっくりはなせば元にもどります。
- ⑤ 上メスをもどし、ルーパーカバーと布板をしめます。

●糸の通し方

⚠ 電源スイッチを切ってください。



*糸道案内図はルーパーカバーの内側にあります。

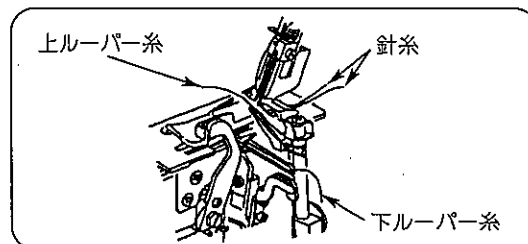


このミシンは、あらかじめ糸がセットしてありますが、糸替えをする時は次のようにしてください。

1. 糸掛けスタンドの糸掛けに通してから糸をつないでください。
2. 押え上げをあげ、結び目を押えの下から向こう側へ出るまで引き出します。
3. ただし、針糸は針の手前にたるみを作ってから引き出します。(針の曲がり防止) 結び目は、針穴の手前で止め、結び目を切ってから針穴に通します。
4. 縫い始める前に、押えの下で各糸をはらって、針糸が針板の下にないことを確認してから、押えの後ろへ10cmほど各糸を引き出します。
5. 押えをおろしてから、縫い始めます。

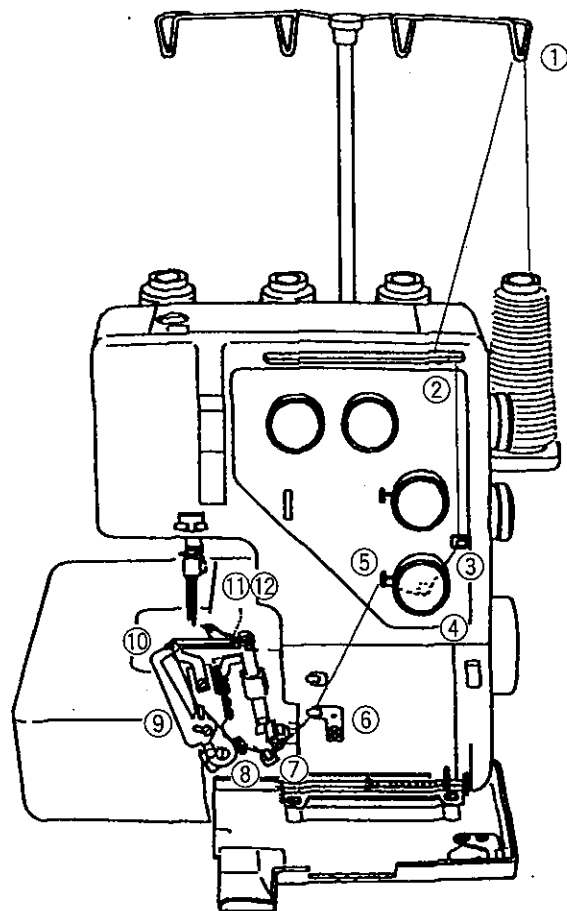
● 糸替えをした時や切れた糸を通し直した時は、次のようにして縫い始めることもできます。

1. はずみ車を手前に回して針を最上部にあげておき、上ルーパー糸の糸端を上ルーパーの先端から押えの上に10cmほど引き出します。
2. 下ルーパー糸の糸端を糸穴から10cmほど引き出して、下にさげておきます。
3. 針糸が針板の下にないことを確認してから、押えの下から後ろへ10cmほど引き出します。
4. 押えをおろしてから、縫い始めます。

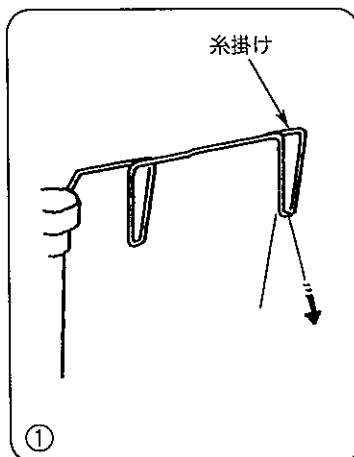


★下ルーパー系の通し方

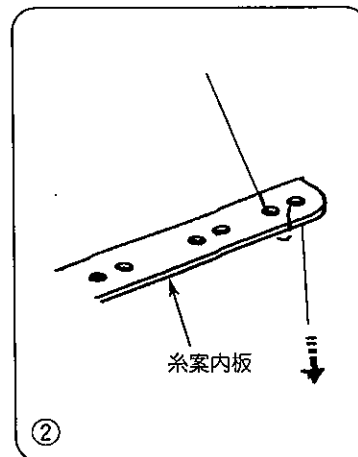
⚠ 電源スイッチを切ってください。



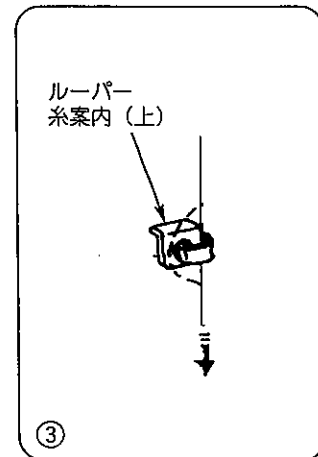
- * 緑色マークの糸道を通してください。
- * ルーパーカバーと布板をひらきます。
- * 糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。



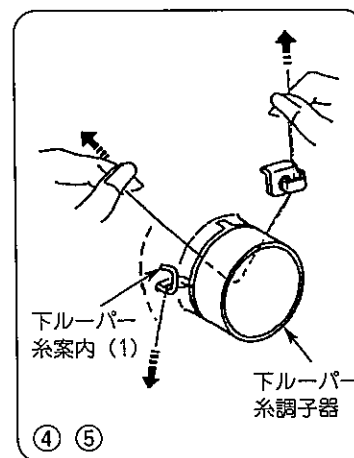
① 糸こまから糸を引き出して、右側の糸掛けに掛けます。



② 糸案内板の右側の2つの穴に通します。

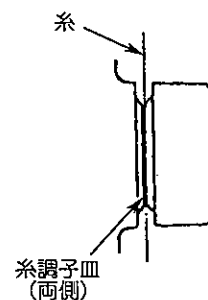


③ ルーパー糸案内(上)に掛けます。



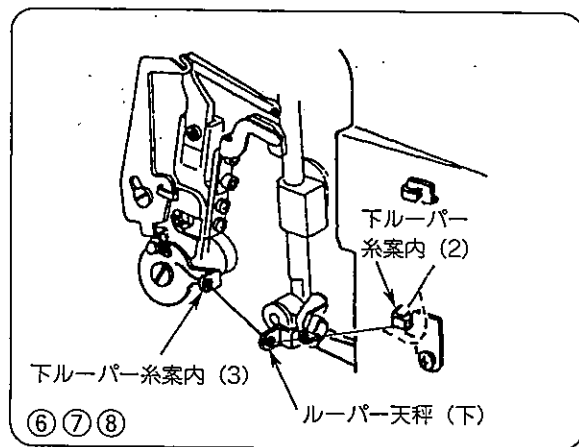
④ 右手で糸を押え、左手で糸端をつまんで、下ルーパー糸調子器の下側にまわした糸を、図のように引き上げて、糸調子皿の間に入れます。

⑤ 下ルーパー糸案内(1)に掛けます。

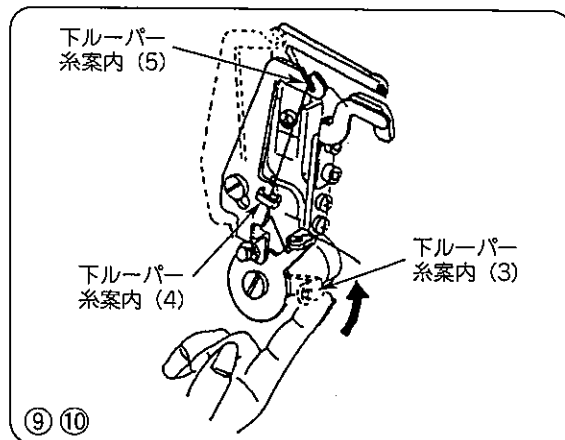


* 糸は必ず糸調子皿の間に確実に入れてください。

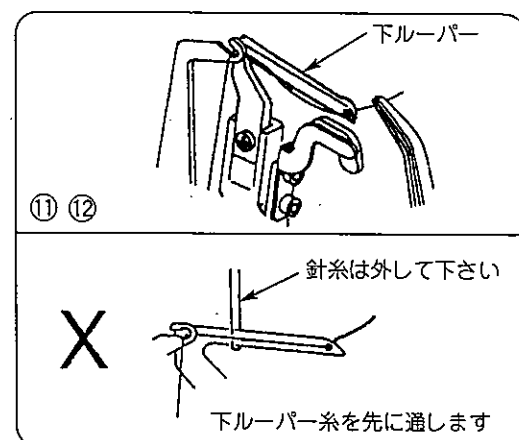
⚠ 電源スイッチを切ってください。



- ⑥ 下ルーパー系案内(2)に掛けます。
- ⑦ はずみ車を回して、ルーパー天秤(下)を掛けやすい位置にしてから糸を通します。
- ⑧ 下ルーパー系案内(3)に糸を通します。

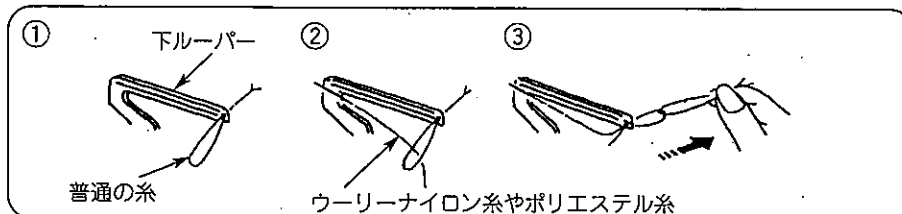


- ⑨ はずみ車を回して、下ルーパーを最右点にして下ルーパー系案内(3)を持ち上げると、下ルーパー系案内(4)、(5)が上方に現われます。
- ⑩ 下ルーパー系案内(4)、(5)に糸を掛けます。
- * 糸の先端を持って、はずみ車を手前に回すと、下ルーパー系案内(3)、(4)、(5)は、元の位置に自動復帰します。



- ⑪ はずみ車を回して、下ルーパーを最右点にして、下ルーパー系案内(3)に糸を通します。
- * この際、針糸が下ルーパーに補足されたまま糸通しをしないで針糸を一度外して、下ルーパー糸を先に通して下さい。
- ⑫ 糸端は、押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。布板をしめます。

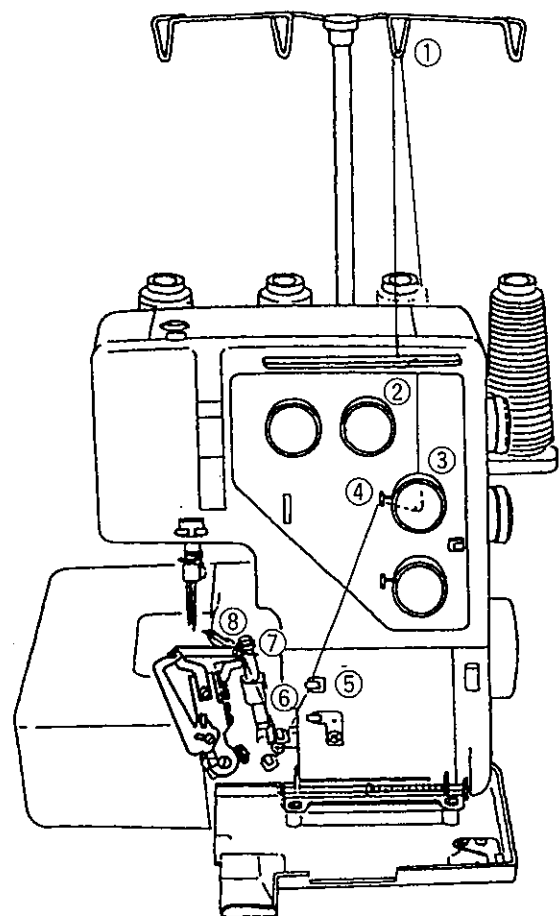
<ウーリーナイロン糸やポリエステル糸の通し方>



- 下ルーパーの穴に通しにくいウーリーナイロン糸やポリエステル糸などは、上図の方法で通します。
- * 上ルーパーの場合にも、同じ方法で糸通しをしてください。

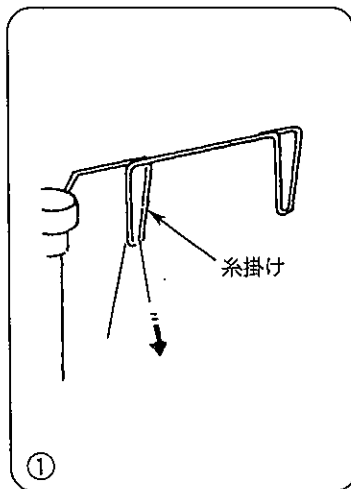
★上ルーパー糸の通し方

⚠ 電源スイッチを切ってください。

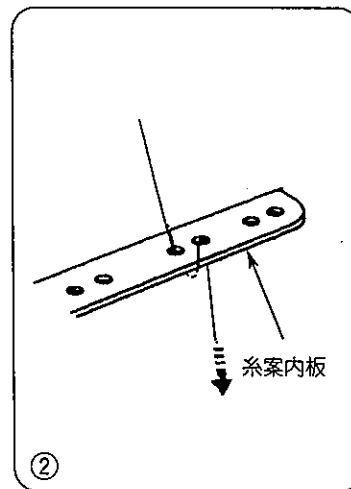


* 赤色マークの糸道を通してください。

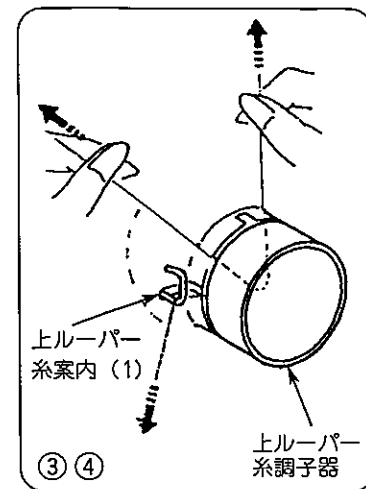
* 糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。



① 糸こまから糸を引き出して、右から2番目の糸掛けに掛けます。

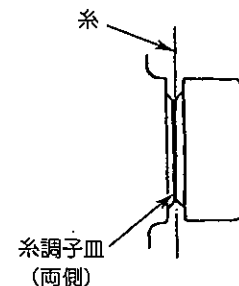


② 糸案内板の右から2番目の2つの穴に通します。



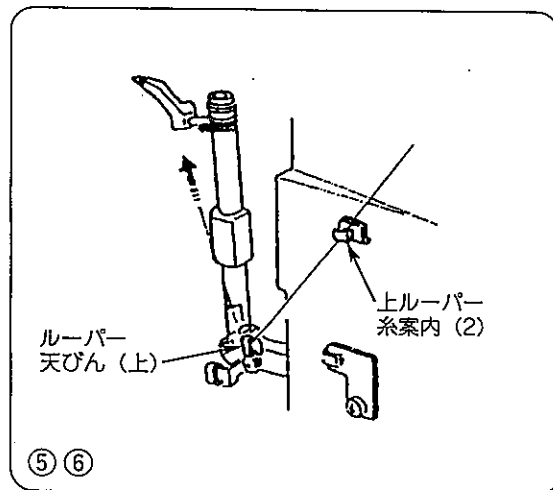
③ 右手で糸を押さえて、左手で糸の先端を引き、上ルーパー糸調子器の糸調子皿の間に入れます。

④ 上ルーパー糸案内(1)に掛けます。

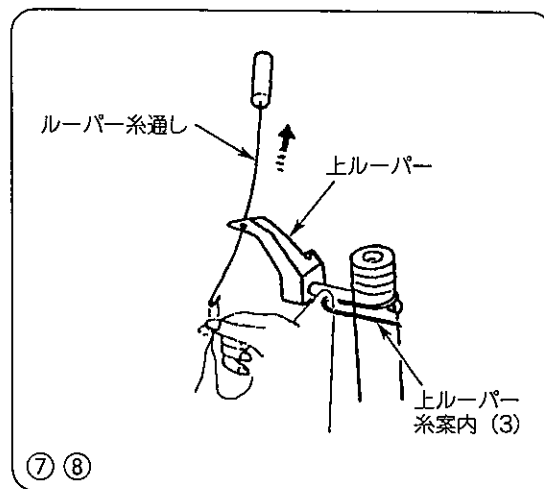


* 糸は必ず糸調子皿の間に確実に入れてください。

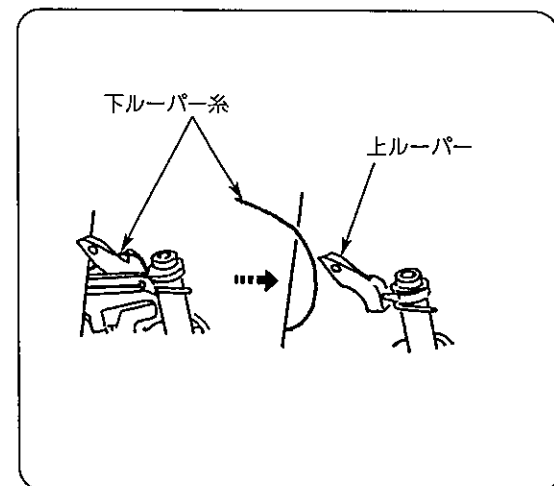
⚠ 電源スイッチを切ってください。



- ⑤ 上ルーパー系案内(2)に掛けます。
- ⑥ はずみ車を回してルーパー天びん(上)を掛けやすい位置にしてから、糸を掛けます。

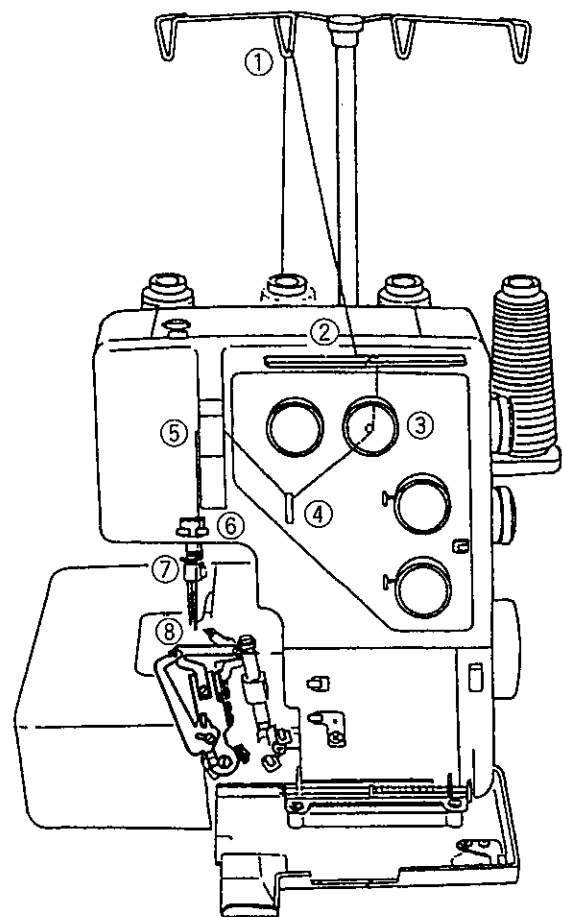


- ⑦ 上ルーパー系案内(3)に掛けます。
- ⑧ ルーパー系通しを上ルーパーの穴に通して、糸通しの先端に糸ループを引っ掛けて引きもどします。
- ルーパー系通しをはずし、糸端を押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。



- * 上ルーパー系を通す時、上ルーパーから下ルーパー系を外して上ルーパー系を通します。

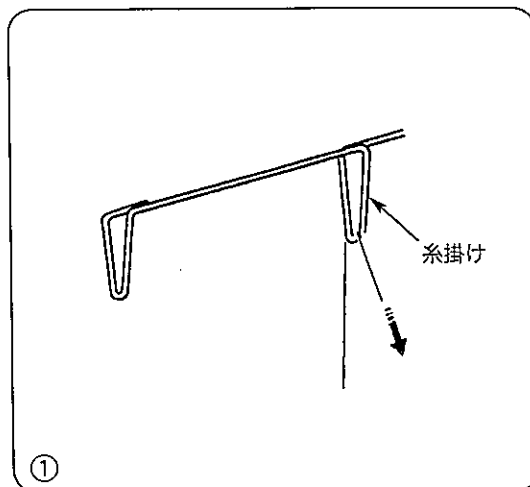
★右針糸の通し方



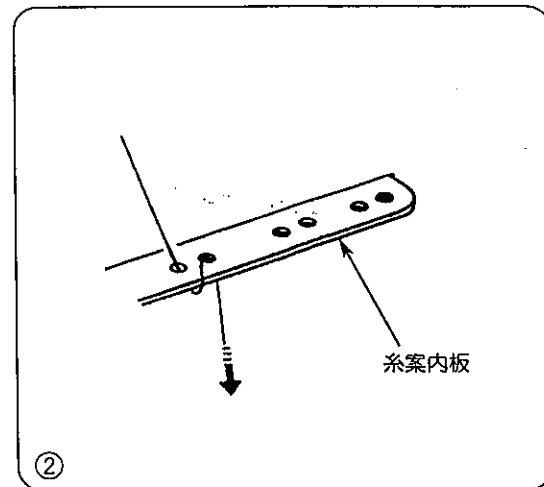
* 青色マークの糸道を通してください。

* 糸道案内図はルーパーカバーの内側にあります。

⚠ 電源スイッチを切ってください。

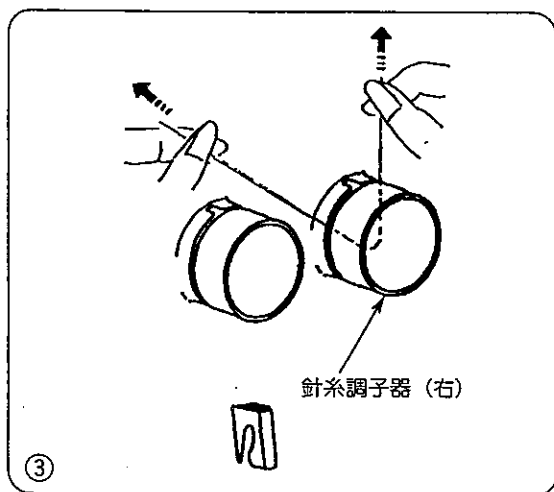


① 糸こまから引き出した糸を、左から2番目の糸掛けに掛けます。

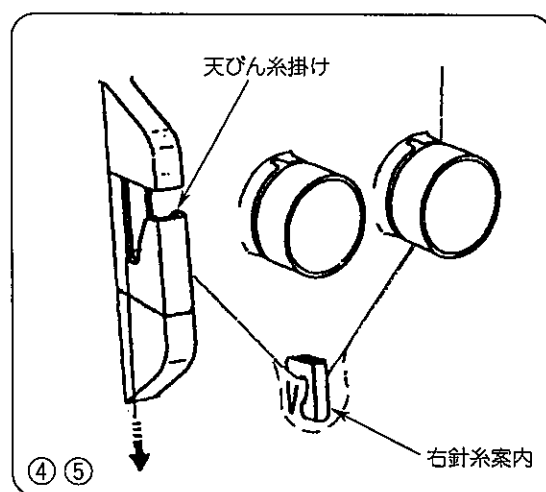


② 糸を糸案内板の左から2番目の2つの穴に通します。

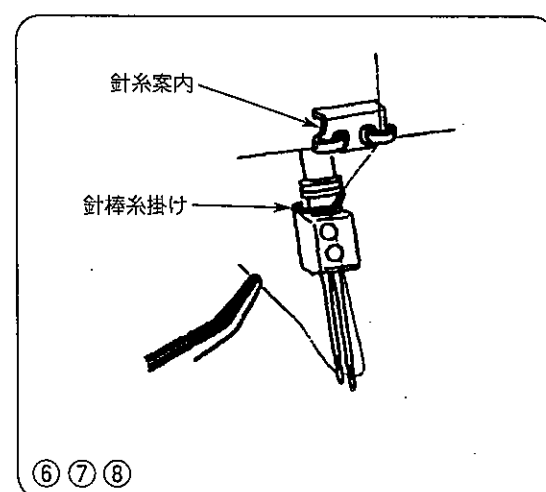
⚠ 電源スイッチを切ってください。



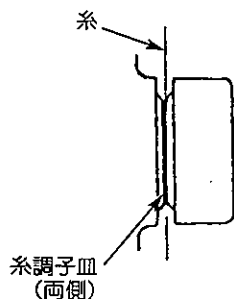
- ③ 右手で糸を押さえ、左手で糸の端を引いて、針糸調子器(右)の糸調子皿の間に入れます。



- ④ はずみ車を回して針を最上部にあげ、糸を右針糸案内に掛けます。
⑤ 天びん糸掛けに掛けます。

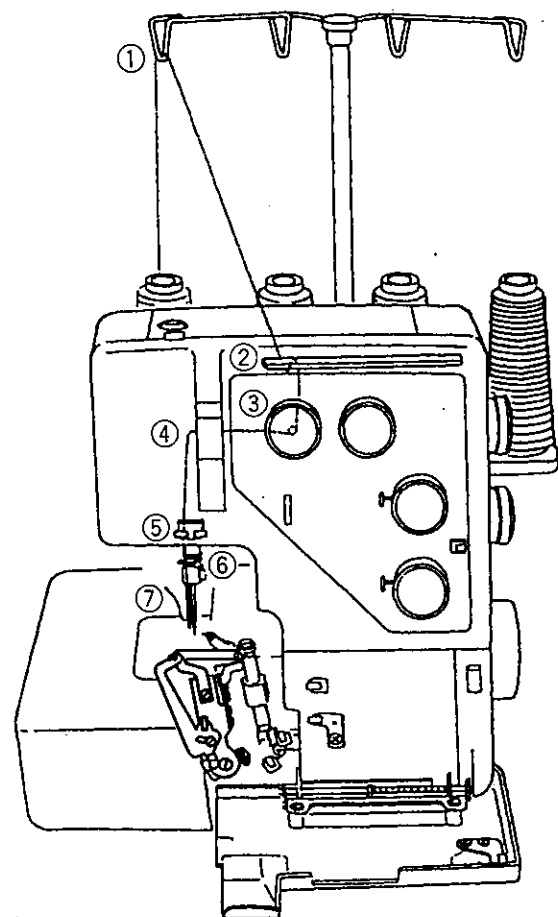


- ⑥ 針糸案内の右側に左から右に掛けます。
⑦ 針棒糸掛けに掛けます。
⑧ 右側の針穴に糸を手前から向こう側に通します。
糸は、押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

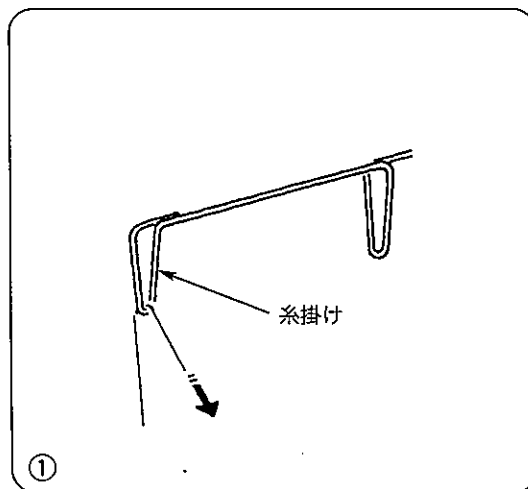


* 糸は必ず糸調子皿の間に
確実に入れてください。

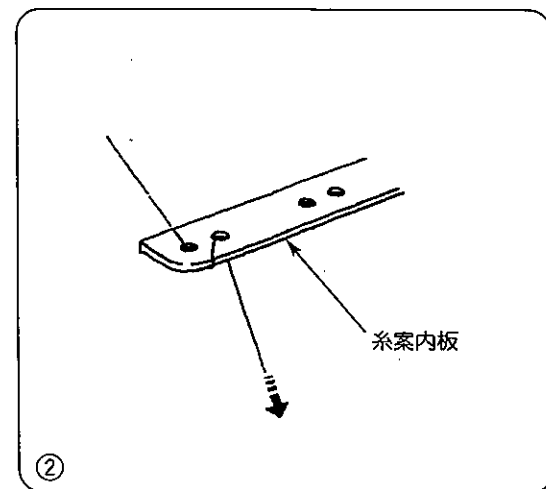
★左針系の通し方



⚠ 電源スイッチを切ってください。



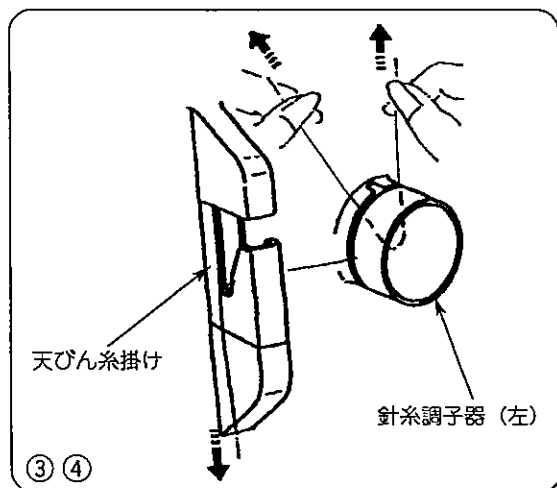
① 糸こまから引き出した糸を、左の糸掛けに掛けます。



② 糸を糸案内板の左の2つの穴に通します。

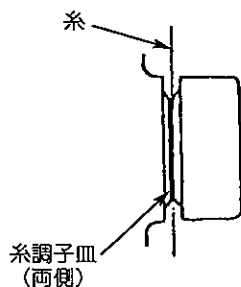
* オレンジ色マークの糸道を通してください。

* 糸道案内図は、ルーパーカバーの内側にあります。

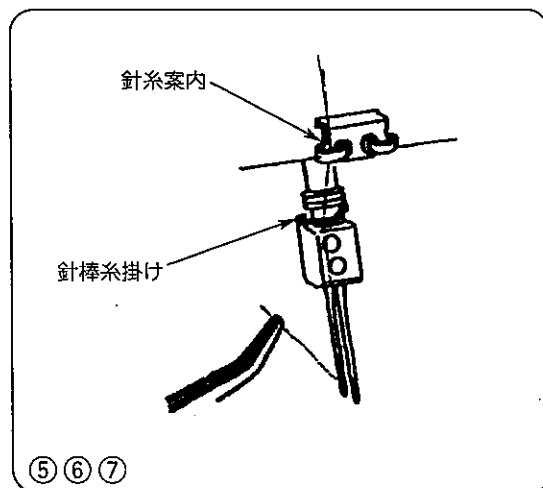


③ 右手で糸を押さえ、左手で糸の端を引いて針糸調子器(左)の糸調子皿の間に入れます。

④ はずみ車を手前に回して針を最上部にあげ、糸を天びん糸掛けに掛けます。



* 糸は必ず糸調子皿の間に
確実に入れてください。



⑤ 針糸案内の左側に右から左に掛けます。

⑥ 針棒糸掛けに掛けます。

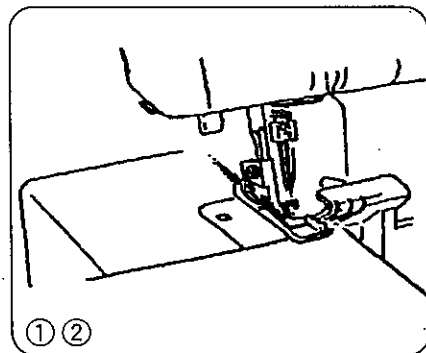
⑦ 左側の針穴に糸を手前から向こう側に通します。

糸は、押えの下から向こう側へ10cmほど引き出しておきます。

ルーパーカバーをしめます。

●試し縫いをしましょう

★縫いはじめ

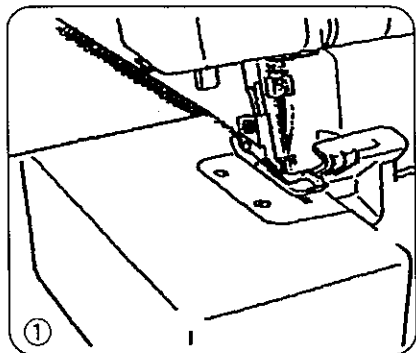


- ① 押え上げをさげます。
- ② 各糸を押えの下から向こう側に引きそろえて、ゆっくり縫いはじめ、5～6cm、カラ縫いをします。
カラ縫いした糸のからみぐあい確かめてから、布をセットして縫いはじめます（押えをあげる必要はありません）。
布は自動的に送られますから、手は、縫いたいと思う方向に布を導くだけにしてください。

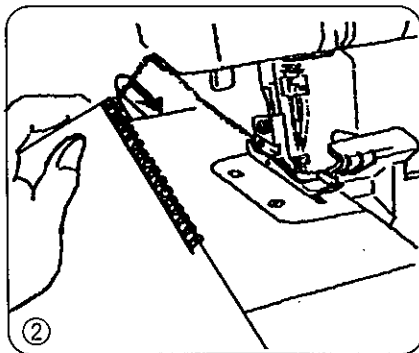
〈糸調子の出し方〉

- ① 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子器は、目盛「3」を基準にして試し縫いをします。
- ② 糸調子のバランスがとれていないときには、24～27ページを参照して正しく調節してください。

★縫いおわり

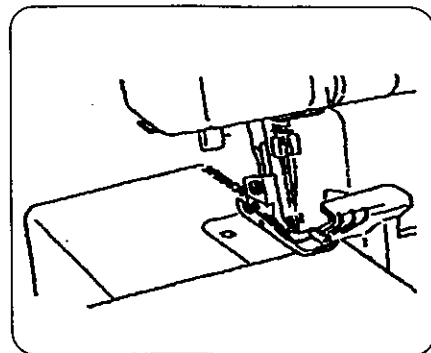


- ① 布端まで縫い終わったら、そのままミシンを低速で、約12～13cm、カラ縫いをします。



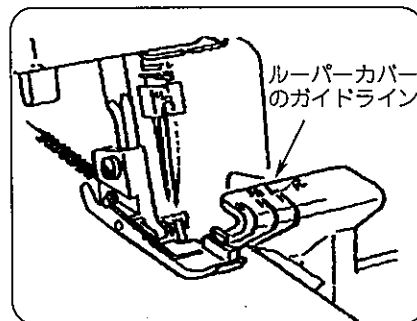
- ② 布の端より5～6cm残し、カラ縫いをした糸を糸切りか、はさみで切ります。

★つづけて縫うとき



- 押え上げをあげずに、つぎの布地を押えの下に差し込むようにして縫います。
- * 厚い布を縫うときは、押え上げをあげ、布地を上メスの手前まで差し入れ、押え上げをさげて縫います。

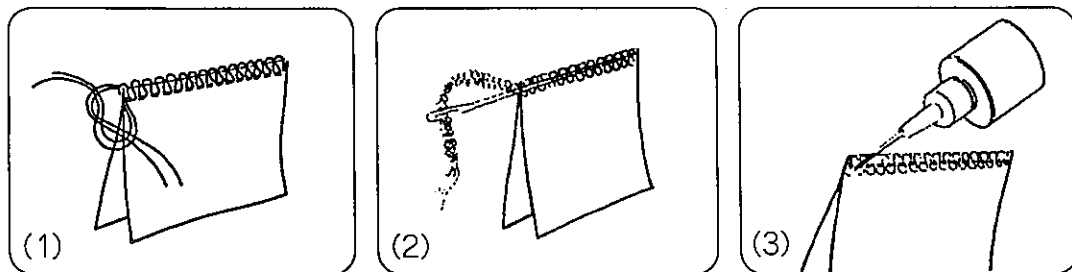
★ガイドラインの使い方



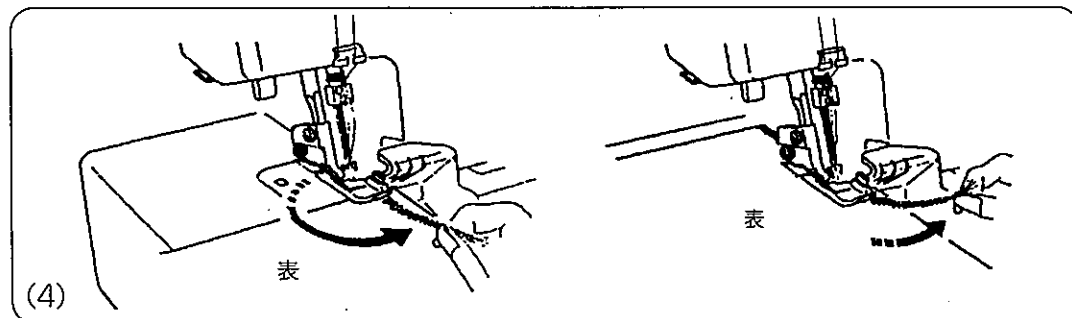
ルーパーカバーの上部には、針落ちからの距離を示すガイドラインを用意しています。
切り落としの目安としてお使いください。

3本ある刻み線の中央は針落ちから15mmで実線が右針、点線が左針からの距離を表しています。

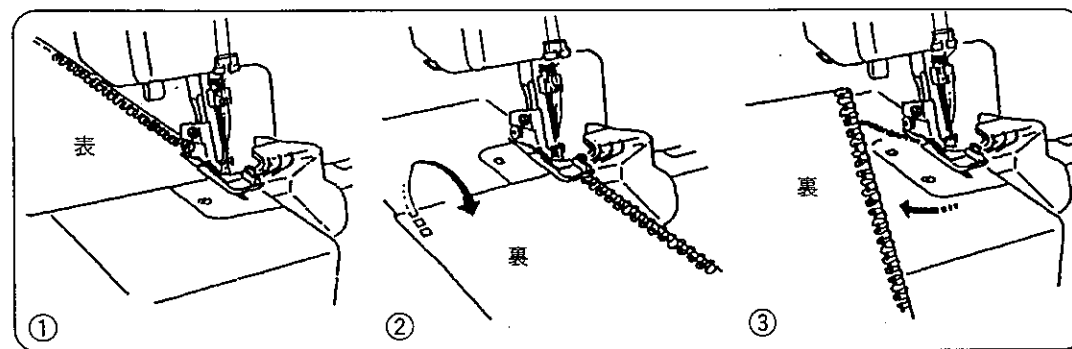
●縫い始め、縫い終わりの糸の始末・縫い目のほどこき方



●縫い始め



●縫い終わり



縫い始め、縫い終わりの糸をそのままにしておくとはづれてしまいます。縫い始め、縫い終わりの糸の始末には色々な方法がありますので、お好みの方法をお選びください。

- (1) 5cm位のカラ縫い糸をほどこき、その糸を使って布端で結び目を作る方法。
- (2) カラ縫い糸をトジ針で縫い目の中に入れる方法。
- (3) 布端のカラ縫い糸の根元に手芸用ボンドを少し付け乾燥してから余分な糸を切り落とす方法。
- (4) ロックミシンで始末する方法。

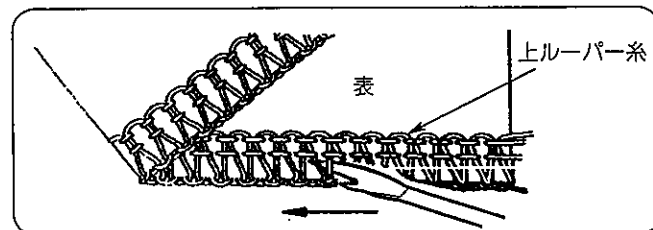
●縫い始め

1. カラ縫い糸を5cm位出しておきます。
2. 布地を入れ、2～3針だけ縫います。
3. ミシンを止め、押えをあげます。
4. カラ縫い糸は左から押えの下へ入れ、軽く手前に引きながら、押えを下げ、布といっしょに縫い込みます。
5. 余分なカラ縫い糸はメスにかかるとようにします。

●縫い終わり

- ① 布地の終わりの所でミシンを止めます。
- ② 針と押えを上げ、布地をかがり爪から外して裏返します。かがり幅に合わせて針を落とし、押えをさげます。
- ③ 今まで縫った所がメスに当たらないように2～3cm縫いながら横方向に布地を外します。

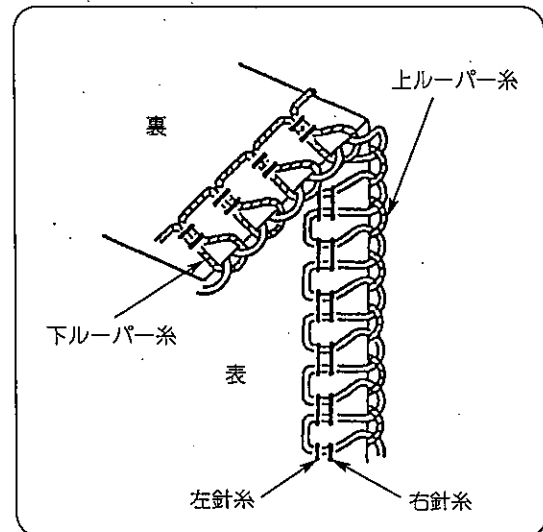
●縫い目のほどこき方



上ルーパー糸のすべてを市販のリツパーなどで布地を痛めないように切断しますと、簡単に縫い目がほどこけます。

●糸調子の出し方（2本針4本糸）

★正しい糸調子



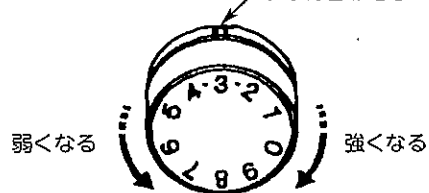
○ 糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがありますので、縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

〈糸調子の出し方〉

針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の各糸調子器は、目盛「3」を基準にして試し縫いをして正しく調節してください。

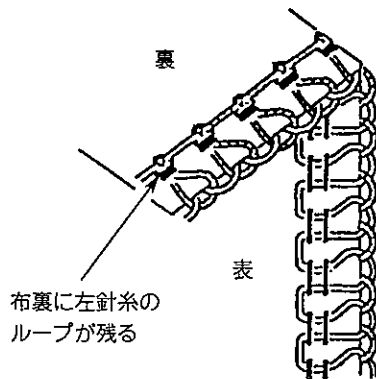
*最初に針糸から調節してください。

ここに合わせる

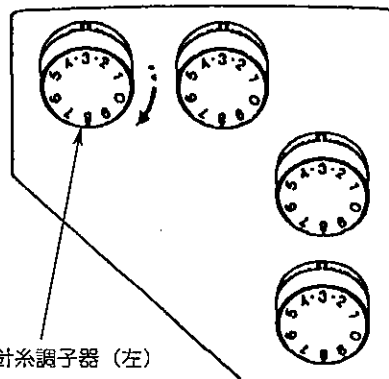


★糸調子の調節のし方

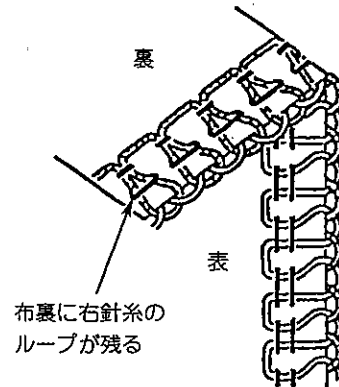
〈左針糸が弱いとき〉



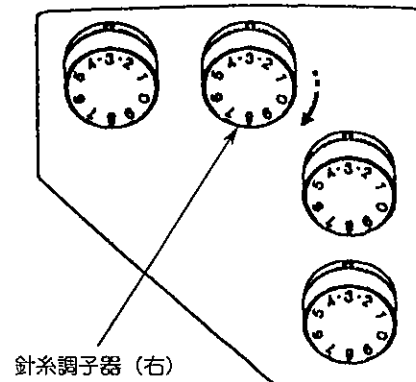
針糸調子（左）を強くします。



〈右針糸が弱いとき〉

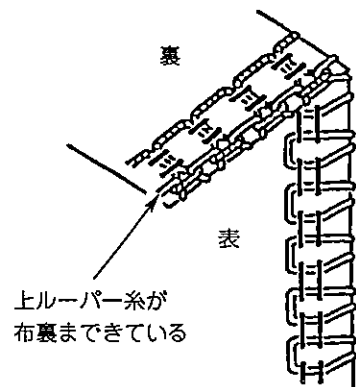


針糸調子（右）を強くします。

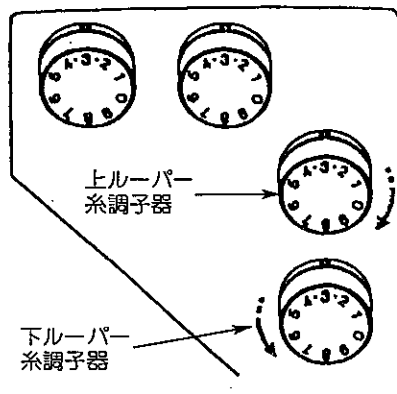


★糸調子の調節の仕方

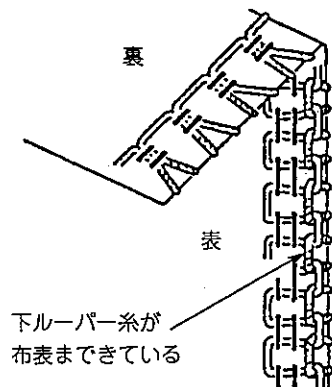
《下ルーパー糸が強い、
上ルーパー糸が弱いとき》



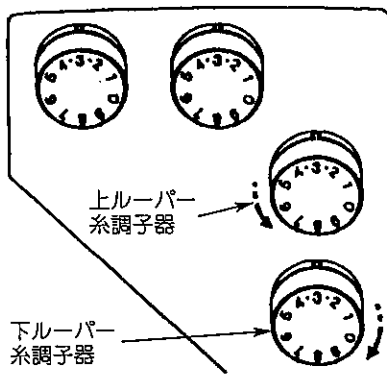
下ルーパー糸調子を弱くする、または
上ルーパー糸調子を強くする



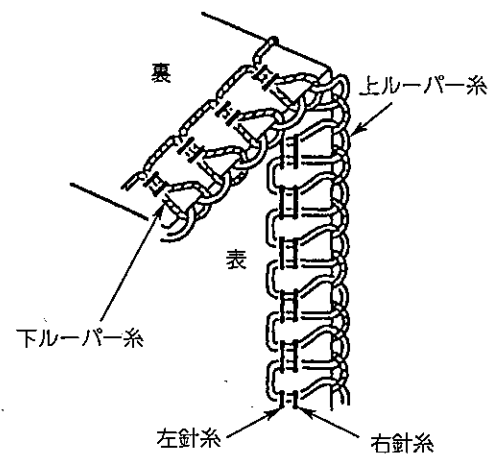
《下ルーパー糸が弱い、
上ルーパー糸が強いとき》



下ルーパー糸調子を強くする、または
上ルーパー糸調子を弱くする



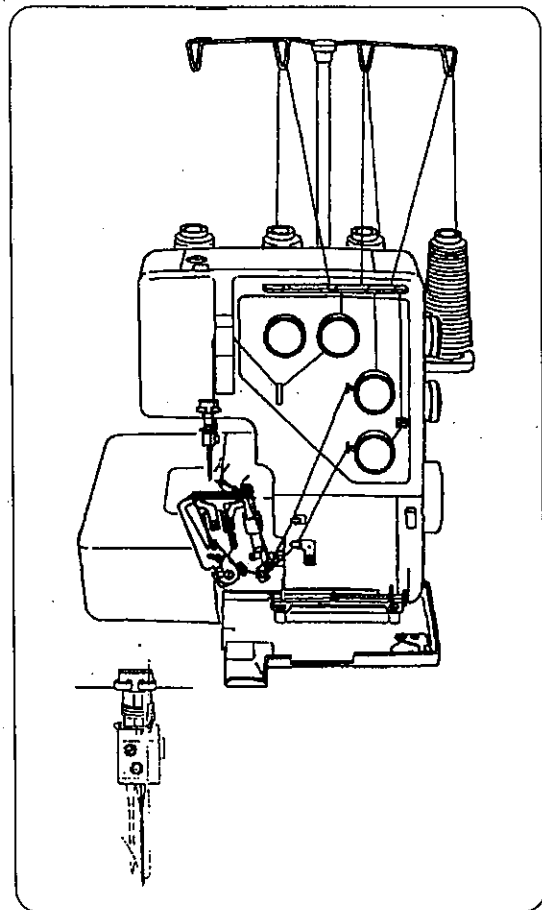
★正しい糸調子



●糸調子の出し方 (1本針3本糸)

★右針を使うときの糸の通し方

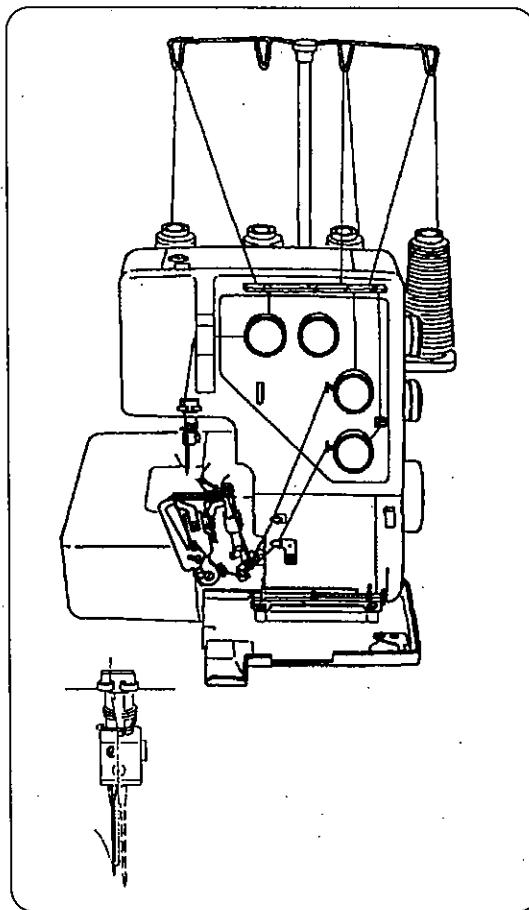
(かがり幅3.5mm)



左側の針止めねじをゆるめて左針をはずし、ゆるめた針止めねじがはずれないように、軽くしめておきます。

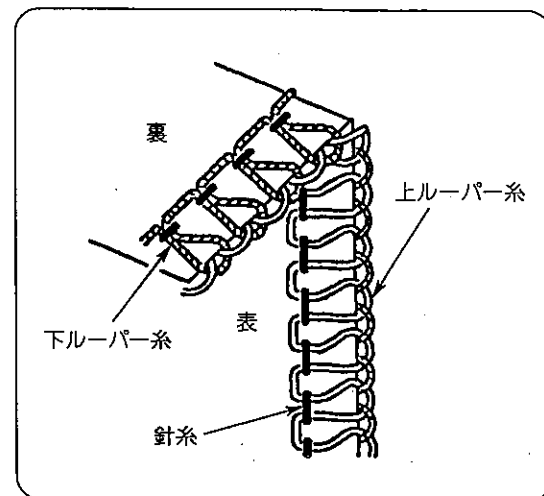
★左針を使うときの糸の通し方

(かがり幅5.7mm)



右側の針止めねじをゆるめて右針をはずし、ゆるめた針止めねじがはずれないように、軽くしめておきます。

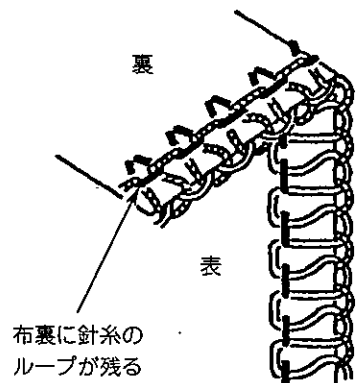
★正しい糸調子



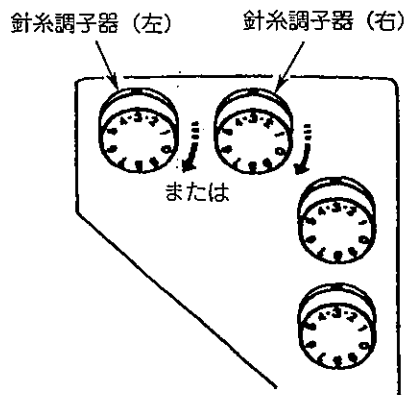
★糸調子の調節の仕方

* 針糸、上ルーパー糸、下ルーパー糸の3つの糸調子器は、目盛「3」を基準に試し縫いをして正しく調節してください。

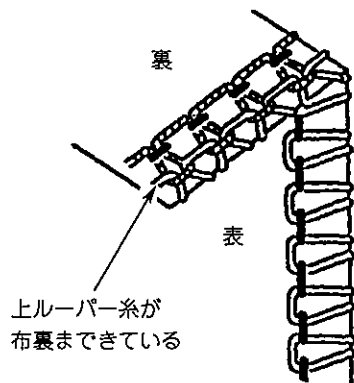
《針糸が弱いとき》



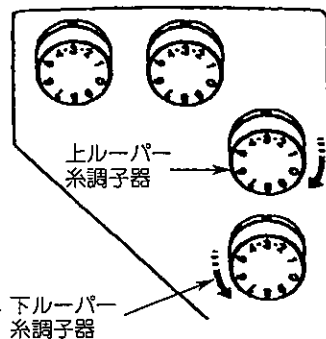
針糸調子を強くする



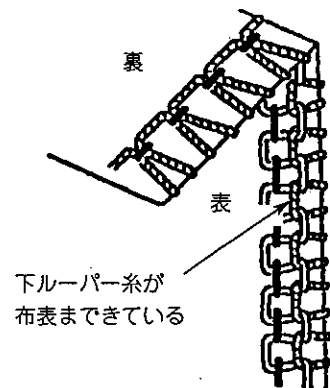
《下ルーパー糸が強いが、
上ルーパー糸が弱いとき》



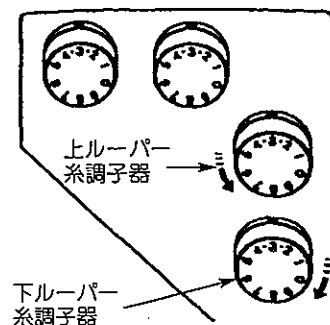
下ルーパー糸調子を弱くする、または
上ルーパー糸調子を強くする



《下ルーパー糸が弱いが、
上ルーパー糸が強いとき》

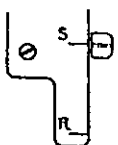


下ルーパー糸調子を強くする、または
上ルーパー糸調子を弱くする

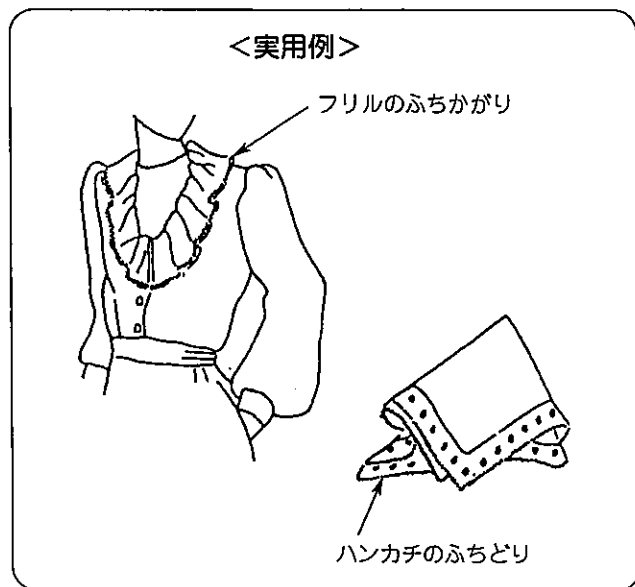


* 最初に針糸から調節してください。

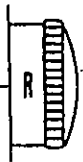
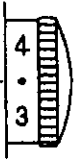
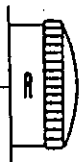
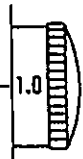
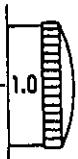
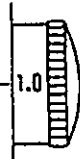
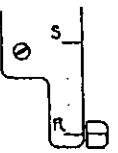
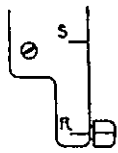
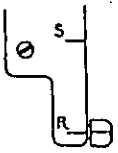
●布に適した糸や針を選ぶ目安（ふちかがり縫い）

布の種類		糸 	針 	送り調節ダイヤル 	差動調節ダイヤル (Dタイプのみ) 	かがり爪切替 えつまみの セット位置	糸調子の目安
うすい布	オーガンジー、ジョーゼット、ローン、クレープデシン、裏地	化繊糸 #80～100	HA-1 SP #11	2.0～3.0mm	0.7～1.0	 S側	3本糸、4本糸ともに目盛「3」を基準に試縫いをして正しく調節してください
普通の布	木綿地、リンネル、サテン	化繊糸 #60～100	HA-1 SP #11～14	2.5～3.5mm	1.0		
厚い布	ツイード、コート地、デニム、ドスキン、	化繊糸 #50～60	HA-1 SP #14	3.0～5.0mm	1.0		
ニット地	メリヤス、編地	化繊糸 #60～90 ウーリーナイロン糸 (ルーバー糸用)	HA-1 SP #11～14	2.5～3.5mm	1.0～2.0		

●巻き縫い、ピコ縫い、細ロック縫い（応用縫い）



ミシンのセット

	巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
送り調節 ダイヤル	 R	 3~4	 R
差動調節 ダイヤル (Dタイプのみ)	 1.0	 1.0	 1.0
使用針	右針 HA-1 SP # 11 （左側の針は外してください）		
かがり爪 切替えつまみの セット位置	 R側	 R側	 R側

応用縫い

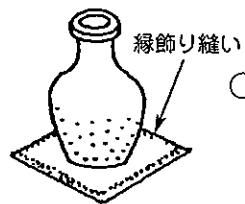
★布と糸の種類と糸調子の目安

糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがありますので、縫い目を見ながら各糸調子器で調節してください。

		巻き縫い	ピコ縫い	細ロック縫い
うすい布 オーガンジー クレープデシン ローン ジョーゼット	針糸（右）	化繊糸 #80～100		
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	ウーリーナイロン糸	化繊糸 #60～100	ウーリーナイロン糸
	糸調子の目安			
	正しい糸調子			
上手に仕上げるには		縫い始めは、カラ縫いした糸を指で少し向こう側へ引きぎみにして縫うときれいに仕上がります	布を軽く向こう側へ引きながら縫うと、きれいに仕上がります	糸調子の調節のし方は、普通のふちかがり縫いと同じです

●縁飾り縫い

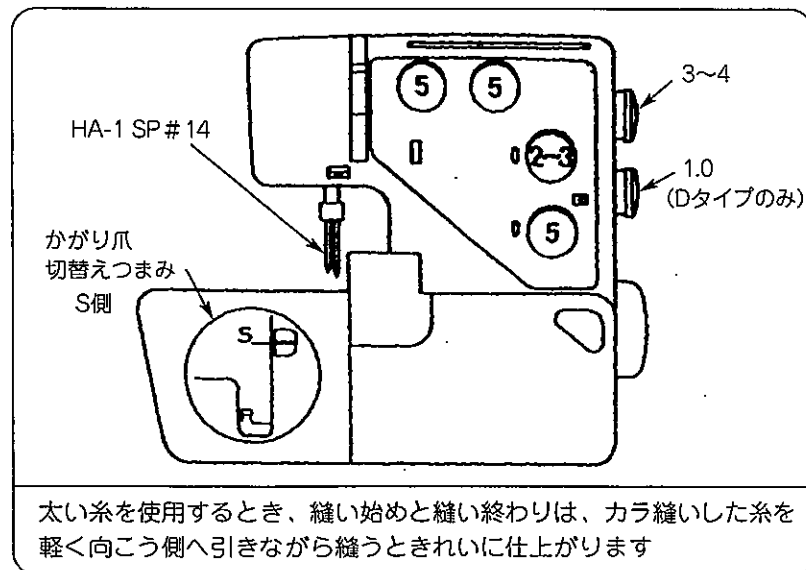
〈実用例〉



- 糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがありますので、縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

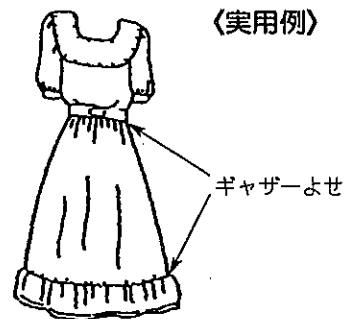
ミシンのセット

布	使用糸	
普通の布 厚い布	針糸 (右、左)	化繊糸 #60~80
	上ルーパー糸	飾り糸、極細毛糸
	下ルーパー糸	化繊糸 #60~100



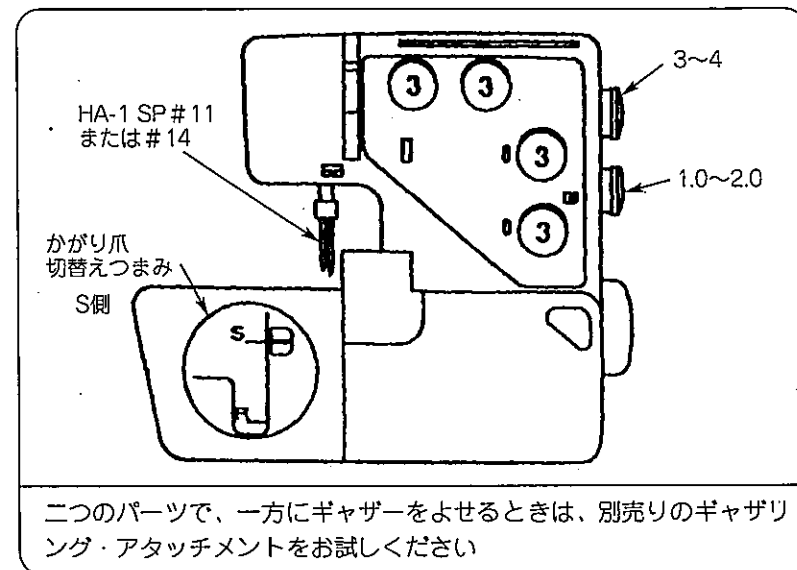
●ギャザーよせ (Dタイプのみ)

〈実用例〉



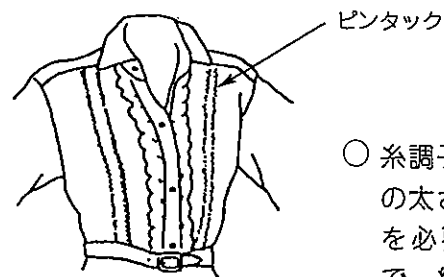
ミシンのセット

布	使用糸	
普通の布 うすい布	針糸 (右、左)	化繊糸 #60~80
	上ルーパー糸	化繊糸 #60~80
	下ルーパー糸	化繊糸 #60~80



●ピンタック

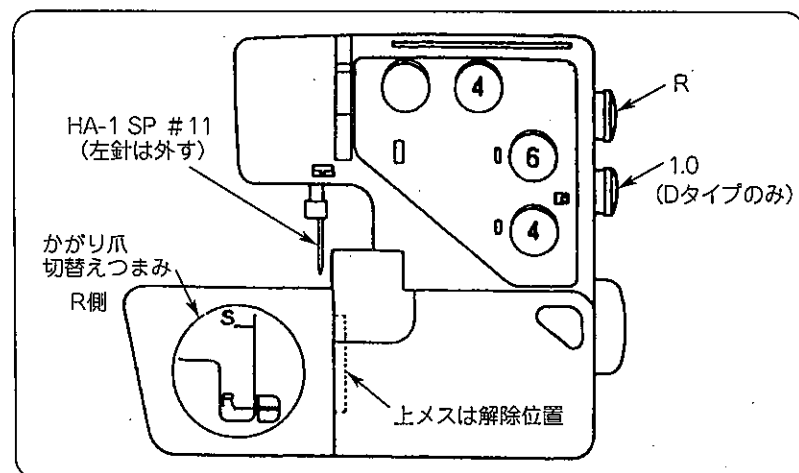
《実用例》



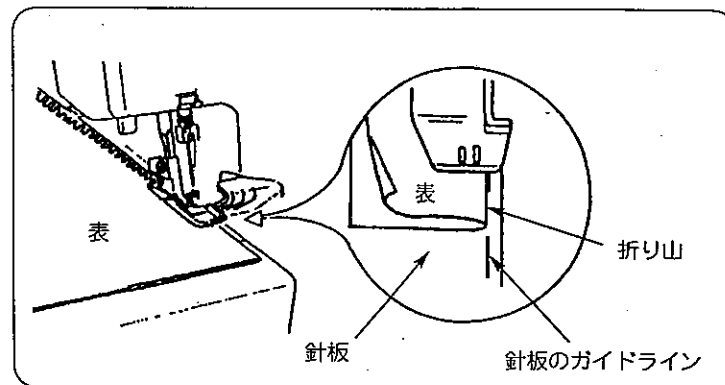
○糸調子の目安は、布地の種類や糸の太さ、種類によって多少の調節を必要とすることがありますので、縫い目を見ながらそれぞれの糸調子器で調節してください。

ミシンのセット

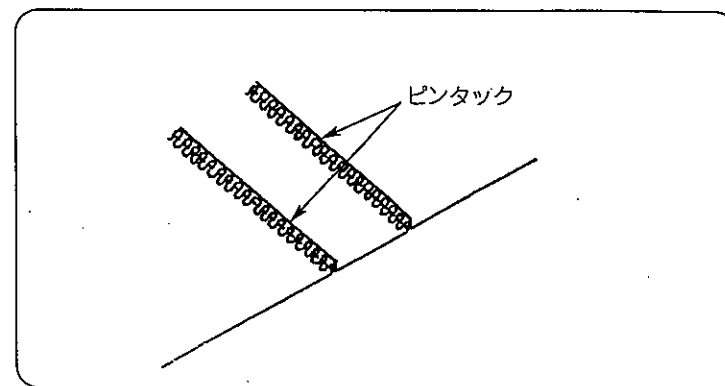
布	使用糸	
うすい布 ニット地	針糸(右)	化繊糸 #60~80
	上ルーパー糸 下ルーパー糸	化繊糸 #60~100



縫い方



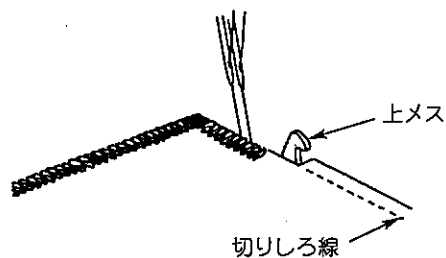
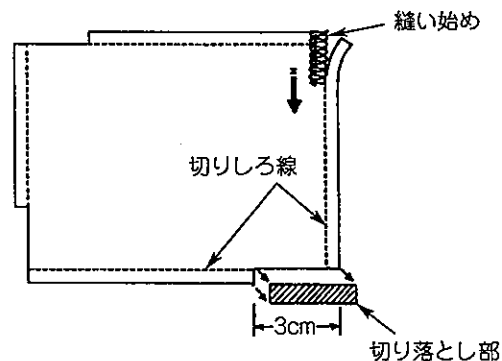
左側の針をはずしてください。(3本糸で縫います。)
上メスを解除します。
折り山がガイドラインにそるようにして縫います。



布をひらいて、アイロンで山を片側に倒します。
上メスをもとにもどします。

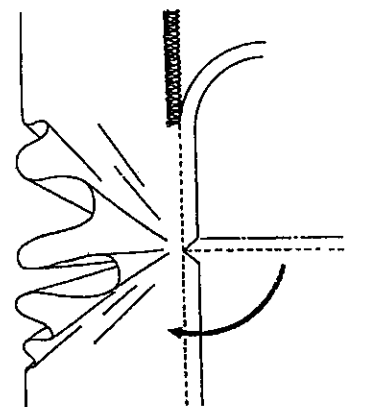
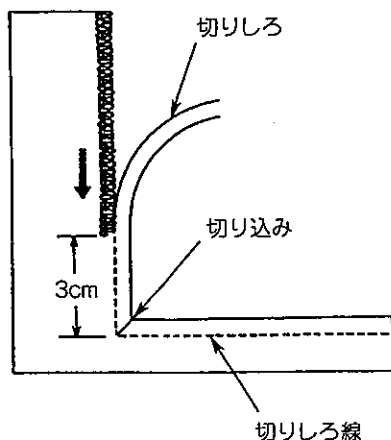
●コーナー部の上手な縫い方

〈外角のとき〉



- ① 四すみのうち、縫い始め部をのぞく角を図のように切りしろ線にそって約3cm切り落とします。
- ② 縫い始め部から次の角まで縫い終わったとき、ミシンを停止し、針と押えを上げ、ゆっくりと布を回して切りしろ線に上メスを当てるようにセットします。
- ③ 押えを下げます。
- ④ コーナー部で縫い目が重なるように縫いを続けます。

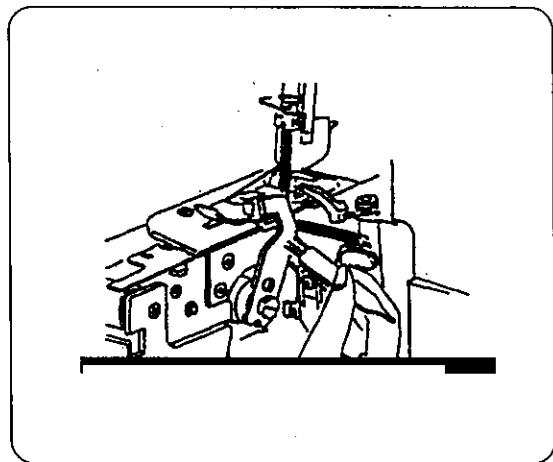
〈内角のとき〉



一旦停止し、切りしろ線を直線上にそろえ、縫いを続ける

- ① あらかじめコーナー部に切り込みを入れます。
- ② コーナー部に向かって縫い進み、切り込みの約3cm手前でミシンを一旦とめます。
- ③ 次に縫われる切りしろ線を直線上にそろえ押えの下側へ送り込みます。
- ④ そのまま縫い進みますと内角の縫いがきれいに仕上がります。

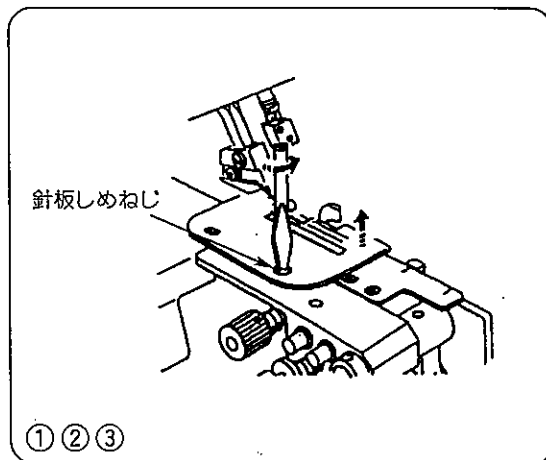
●切りくずの掃除



⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ルーパーカバーをひらき、切りくずをブラシで取り除きます。

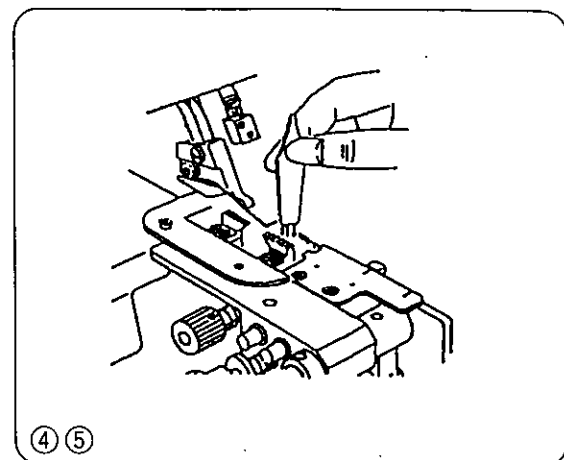
●送り歯の掃除



① ② ③

⚠ 電源スイッチを切ってください。

- ① ルーパーカバーと布板をひらきます。
- ② 針と押えをはずします。
- ③ 針板しめねじをゆるめ、針板をはずします。

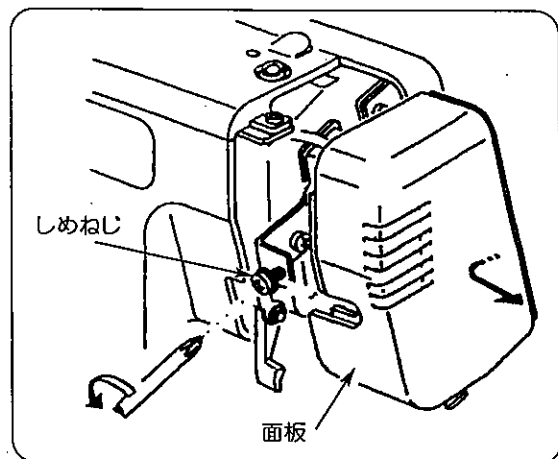


④ ⑤

- ④ 送り歯のごみを、ブラシで落とします。
- ⑤ 針板、押え、針をとりつけ、ルーパーカバーと布板をしめます。

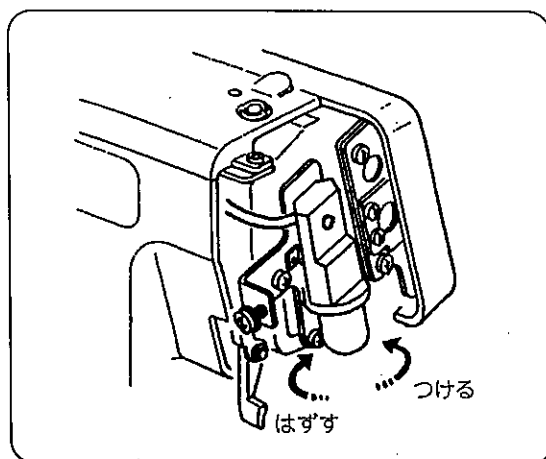
* ブラシで掃除しにくい切りくずや、ほこりは、電気掃除機などで吸い取ってください。

●電球のとりかえ方



⚠ 電源スイッチを切ってください。

① しめねじをゆるめ、面板をはずします。



② 電球をはずすとき……左に回します。

電球をつけるとき……右に回します。

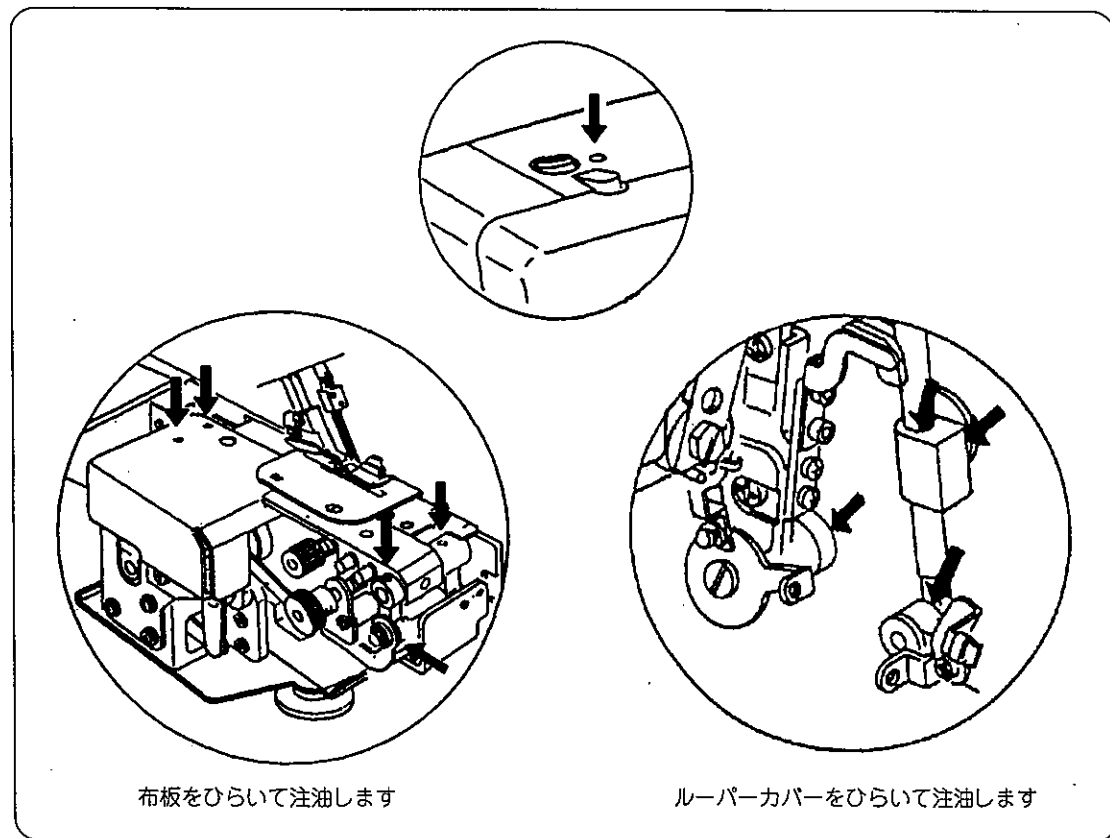
③ 電球をとりかえおわったら、面板をとりつけます。

⚠ 電球をとりかえるときは、電球が冷えていることを確認してください。

⚠ 電球を外した状態でミシンを使用しないでください。

* このミシンの電球は照明用100V-12Wを使用してください。

●注油のし方



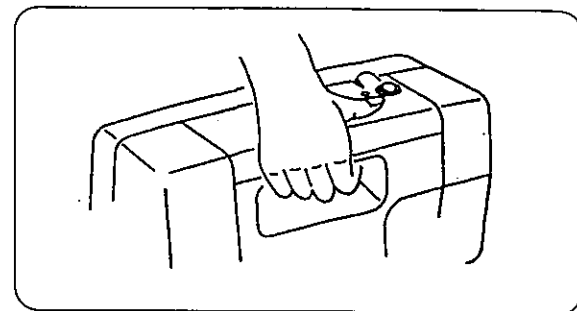
⚠ 電源スイッチを切ってください。

矢印の個所に良質のミシン油を1～2滴注油し、注油後、布板とルーパーカバーをしめ、押え上げをあげます。

電源スイッチを入れ1～2分ほどミシンを回転させて、よく油をしみこませます。

一般家庭では1週間に1度、継続して使用するとき、10時間に1回くらい。また、しばらく使用しなかったときは、使う前に一通り注油してください。

●ミシンの持ち運び方

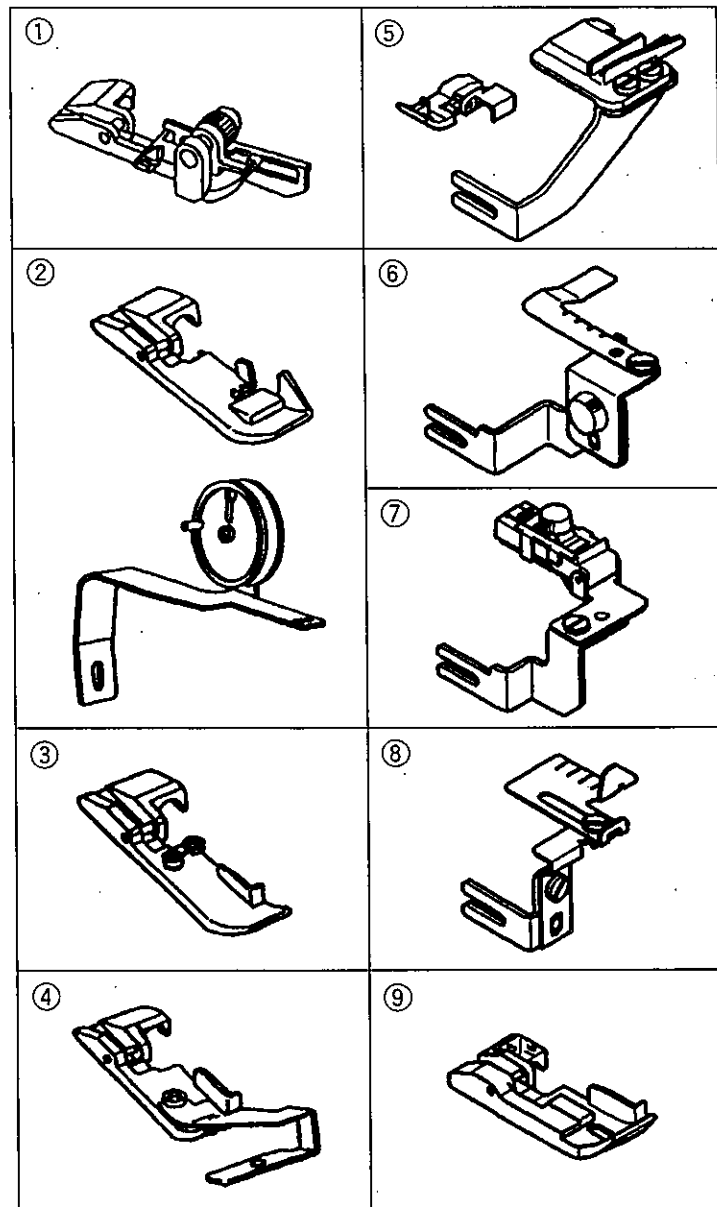


ミシン本体裏側の上部にくぼみがありますので、図のように指をかけますと、持ち運びができます。

●別売付属品

- お客様方からのご要望を反映して、特定の用途を満たし、便利で美しい仕上がりを手助けする各種アタッチメント類を用意しておりますのでご利用ください。
- その他、特殊縫いに関しても、お買上げの販売店にご相談下さい。

①	裾引き押さえ	ズボンやスカートのすそのまつり縫いが美しくできます。
②	テープ押さえ	市販テープをリールに巻き取って、ニット地など伸縮性のある布地の肩線や脇縫いの伸び止めに使用します。
	テープリール	
③	コード付け押さえ(1)	飾りコード付け、フィッシュライン付けによる波立てフリル等に使用します。
④	コード付け押さえ(2)	広巾巻き縫い(芯入り)でテーブルクロスなどの縁どりに、またニット地に毛糸等を一緒に縫うと伸び止めの効果がです。
⑤	ビーズ付け押さえ(組)	市販ビーズによる衣服のビーズ飾り縫い等に使用します。使用ビーズ径は1~4mmです。
⑥	ギャザリング(組)	袖付け、袖口、えりぐり付け等に使用します。 (Dタイプにのみ使用可)
⑦	ゴムテープ付け(組)	衣服のすそなどのゴムテープ付けが簡単にできます。サイズは3.5~8mmに使用できます。
⑧	布ガイド	フラットロック、ピンタック縫いなどへ多様に使用できます。布のガイドや布の切り代のガイドに使用します。
⑨	パイピング押さえ	パイピング(パイヤステープ)材による補強や飾り縫い。サイズは1/8" (3mm) 用と、3/16" (5mm) 用を別々に用意しています。



●調子がよくないときの直し方

調子がよくない状態	原因	直し方
布地を送らない。	①押えがあがっている。 ②送り歯が糸くずでつまっている。	押えをおろす。 34ページ参照
針が折れる。	①針のつけ方がまちがっている。 ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③布地を無理に引っばった。	8ページ参照 8ページ参照 縫う時は軽く引く程度にする。
糸が切れる。	①糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ②糸調子が強すぎる。 ③針のつけ方がまちがっている。 ④針がまがっていたり、針先がつぶれている。	13～21、26ページ参照 24～27、29～32ページ参照 8ページ参照 8ページ参照
縫い目がとぶ。	①針のつけ方がまちがっている ②針がまがっていたり、針先がつぶれている。 ③糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。	8ページ参照 8ページ参照 13～21、26ページ参照
縫い目の調子が悪い。	①糸調子が強すぎるか、弱すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ③針と糸が布に対して合っていない。 ④糸調子皿に、糸がきちんと入っていない。	24～27、29～32ページ参照 13～21、26ページ参照 28、29～32ページ参照 15、16、19、21ページ参照
縫い目がしわになる。	①糸調子が強すぎる。 ②糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 ③送りまたは差動調節ダイヤルの設定がまちがっている。 ④かがり爪位置がまちがっている。	24～27、29～32ページ参照 13～21、26ページ参照 10、28、29～32ページ参照 12ページ参照
ミシンがまわらない。	①コンセントにプラグがきちんとさしこまれていない。 ②電源スイッチがOFFになっている。	5ページ参照 ONにする。
縫い目と布のバランスがわるい。	①切り巾の調節が合っていない。	11ページ参照

修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確めの上、大切に保存して下さい。
- 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付け下さい。

修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達機能部品、および縫製機能部品を原則としてお買い上げ日から8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないことがあります。
 - ①保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ②浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ③お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ④お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
 - ⑤職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し越し下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋3-1-1
TEL. 0120-277039（フリーダイヤル）

《仕様》

サイズ：幅287mm×奥行268mm×高さ267mm

重 量：7.3kg

縫速度：毎分1350回転

使用針：家庭用 HA×1SP針、11番・14番

縫い目のあらかさ：1～5mm

かがり幅：3.5mm・5.7mm（3本糸）

5.7mm（4本糸）

電 圧：100V 50/60Hz

消費電力：105W（ランプ 12W）

蛇の目マシン工業株式会社

〒104 東京都中央区京橋3-1-1 ☎ 03 (3277) 2361~2